基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

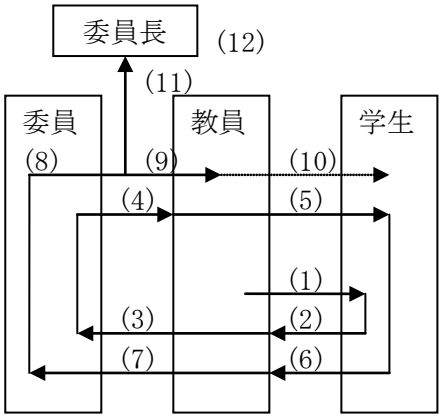
観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

教育活動に関するデータや資料は，各教員，学科から教務会議及び点検評価・フォローアップ委員会に提出され，これらの資料を基に資料９－１－①－１に示される体制で点検・評価が行われている。資料やデータは学内ホームページ（掲示板）や所属学科の資料室・会議室で蓄積されている。

資料９－１－①－１

学習評価・フォローアップ点検実施要領



（１）シラバスの提示・説明
（２）学生による中間授業評価・達成度自己点検評価
（３）教員による学生の中間達成度評価・授業自己点検評価
（４）フォローアップ委員による改善指示
（５）教員による学生への授業改善案の提示
　　授業参観、授業公開、公開授業による改善
（６）学生による最終授業評価・達成度自己点検評価
（７）教員による学生の最終達成度評価・授業自己点検評価
（８）フォローアップ委員による点検・評価
（９）フォローアップ委員と教員の面談
（10）改正した次年度のシラバスの提示・説明
　　（次年度の工程は点線で示す）
（11）面談結果・改善結果の委員長への報告
（12）公開及び学科間の調整・改善指示

（出典　学習評価・フォローアップ点検実施要領　抜粋）

教務会議内のＦＤ活動推進会議では，資料９－１－①－２に示す授業参観実施要領を定め，卒業・特別研究を除く全ての授業科目に対し授業参観を実施するとともに，授業内容や教授方法を評価し，報告書を収集している。そして，同要領に基づきこれらの報告書を学科会議にて点検・評価し，意見交換会を実施し教員へフィードバックするとともに，その議事録を収集している。これら報告書及び議事録は学内ホームページに蓄積し保存している。

また，点検評価・フォローアップ委員会内の学習評価・フォローアップＷＧでは，資料９－１－①－３に示す学習評価・フォローアップ点検実施要領を定め，フォローアップ点検資料と呼ばれるシラ

バス，学生の成績一覧表，定期試験の模範解答と学生の答案，授業評価・達成度評価報告書＆フィードバック報告書などの資料を収集している。これら資料は所属学科の資料室や会議室で蓄積され，全ての教科目について過去数年間分を保存している。

また，同要領に基づき，各学科の点検評価・フォローアップ委員はこれら資料の収集状況を点検・評価するとともに，全科目について学生と教員による授業評価および達成度評価に関する相互評価の点検・評価を行っている。その評価結果を基に教員面談を実施しフィードバックされるとともに，面談結果は資料９－１－①－４に示す教員面談報告書にまとめられ，点検評価・フォローアップ委員長に報告される。委員長は面談報告書を点検し，資料９－１－①－５に示す教育活動実施規程に基づきスパイラルアップ会議に報告するシステムとなっている。

資料９－１－①－２

平成24年4月19日

平成24年度 授業参観実施要項

１．主旨
本校のFD活動として，教員相互の授業参観を含め，本校関係者から一般の教育関係者まで広く授業を公開し，これに伴う授業評価を通して，本校教員の授業運営能力及び教授能力の向上を図る。
２．参観者
本校教職員（非常勤を含む）及び保護者，中学生及びその保護者，中学校の先生及び教育関係者
３．実施期間
平成24年5月14日（月）～18日（金）
４．参観対象授業
本科及び専攻科の実験実習を含む全授業（ただし，卒業研究，特別研究を除く）
５．周知方法
① 学内者：教員は教務主事より，事務職員・非常勤講師は教務係長より
② 保護者：保護者宛ての案内文書を送付（案内文書と授業時間割）
③ その他学外者：ホームページ（山田博文委員担当）
６．授業評価の方法
① 学内者は，別紙１の報告書を電子ファイルで，教員は教務委員，事務職員は教務係長へ提出する（5月25日（金）締切）。
② 保護者及び学外者には，別紙２のアンケート用紙を受付で配布し，教務係で回収する。
③ 教務主事は，提出されたすべての報告書等をPDF化して，学内ホームページに公開する。
④ 各学科長は，参観対象となった所属学科教員に関する報告書等を閲覧し，改善すべき事項について，最良の改善策を見出すために学科会議等で意見交換を行い，その経緯を議事録として記録に残し，保管する。
⑤ 教務主事は，必要に応じて各学科長にその議事録の提出を求め，総括を行う。
７．保護者及び学外者への対応
① 受付：学生課窓口（保護者は名列表に人数を記載，保護者以外は所属と氏名を記載）
② 受付で，リボン，アンケート用紙，授業時間割表，敷地建物案内図，筆記用具を渡す。
③ アンケートの回収：学生課窓口に回収箱を設置
８．その他
① 各学科でこの期間に工場見学等の学外授業を計画しないようにする。高専バスの利用は許可しない方針。
② FD活動推進会議委員はフォローアップ委員会で『満足度』や『達成度の自己評価』について懸念の指摘のあったクラス（①5D②4E③4Cの３クラスを）を重点的に参観.

（出典　平成24年度第３回教務会議資料）

資料９－１－①－３

平成 24 年度　学習評価・フォローアップ点検実施要領

（1）　授業アンケート回数

前期末及び後期末のフォローアップ点検期間に実施する。通年科目は２回、半期科目は１回実施する。希望により半期科目で２回実施してもよい。

（２）　授業アンケート内容
卒業研究、特別研究、工学基礎研究等、点検項目で科目に合わないものについては別の形式で実施し、フォローアップ点検用に成績評価資料等とあわせて保存する。

（３）　授業アンケート用紙
マークシートを印刷室に用意する。全学年記名方式とする。学生氏名および学籍番号を書く欄を表に設けている。裏は自由記述欄とする。記入内容によって成績には影響しないことを明言する。記入内容を確認することがあることは説明する。マークシートは50枚ごとに付箋をいれ、印刷室におく（教務係担）。

（４）　フォローアップ点検手順
① 教員は最初の授業でシラバスを学生に示し、学習・教育目標の評価方法・評価基準、成績の評価方法・評価基準等を説明する。（4月教員会議で教務主事依頼済み）
② 前期末及び後期末に授業アンケートを実施する。アンケートの26個（学修単位の科目の場合は27個）の評価項目は5段階評価とし、記名方式で実施する。希望により無記名とする場合は無記名で実施したことを委員長に連絡すること。授業アンケートには、教員により指定された数値（例えば、フォローアップ点検時に返却した試験答案の点数等）を28，29及び30の列を利用してマークする。
③ 「学生自身の自己点検・評価項目」、「授業に対する点検・評価項目」、「シラバスに記載した学習・教育目標の達成度の学生による自己点検・評価項目」からなる。
学生説明用資料は印刷室に50部単位で10クラス分封筒に入れ用意しておく（教務係担当）。説明用資料が必要な学年や学科については適宜持参し、回収して印刷室に戻しておく。9月3日（月）には授業アンケートができるようにする。授業アンケート実施後、マークシートは印刷室に配置したビニール袋にいれ、必要事項を記入した用紙をはさんで印刷室の学科別（担当教員の所属学科）のコンテナに入れておく。科目コード（科目コードが変更になっている場合があるので最新の科目コードを印刷室におく）、科目名、クラス、教員名等が記入されていないものについては、集計処理できないので、そのまま返却する。返却された授業アンケートはその授業担当教員もしくは該当学科フォローアップ委員が責任もってマークシート集計処理を行う。
④ 平成24年度も前期末及び後期末のマークシート集計処理を外部要員で実施する。処理結果一覧を印刷し、マークシートとともにビニール袋にいれ、前期の学科別のコンテナ（あるいは印刷室の担当教員のボックス）に返却しておく。希望により前期中間及び後期中間に実施する場合のマークシート処理は各学科で対処する。
⑤ 教員はビニール袋の結果を受け取り、マークシートは適宜処理する。
⑥ 教員も全く同じ項目について、「学生の受講態度の平均な評価」、「授業の自己点検及び試験等による達成度の平均評価」を実施し、学生の評価とともにフォローアップ委員に提出する。これは学年末でも良い。学生による教員の点検・評価の各項目の平均値のうち、評価の悪い項目（アンケート項目No.1～No.3以外）について改善案を検討する。（アンケート処理結果は直接教員に伝わり、電子データはフォローアップ委員に報告される。）　通年科目の第1回のアンケートについて、教員は評価の悪かった項目を学生に明らかにし、後半の授業において、どのような手法で改善するかを約束する。さらに、授業参観における保護者による授業評価、教員による授業評価、公開授業の検討内容等を授業に取り入れて授業改善する。半期科目については学期末の授業アンケートであるので、次年度以降に反映する。
⑦ 通年科目について改善案に基づいて後半の授業を実践し、最後の授業で同様のアンケートにより授業評価を行い、実際に改善されたかどうかを学生が評価する。試験答案を返却して解答を解説し、採点基準及び採点結果を確認した後、学習・教育目標の達成度を評価させる。アンケートの目標の項目（アンケート項目No.20～No.25）はシラバスの目標に対応させる。
⑧ 教員は同じ項目について、授業の自己点検・評価及び学生の達成度評価を行う。学生による2回の点検・評価結果をあわせ達成度報告及び⑥の改善結果報告を記載した授業評価・達成度評価報告書＆フィードバック報告書を提出する。半期科目については、前年度と同じ科目である場合は、前年度の改善案を示し、前年度の結果とともに改善結果報告を記載したフィードバック報告書を提出する。前年度と異なる半期科目については今年度の結果のみでよい。成績評価一覧（学生別の定期試験、小テスト、演習問題、レポート等の得点履歴）、定期試験問題の解答及び採点基準、学生の試験答案等も提出する。以上のフォローアップ点検資料については本実施要領の（５）を参照されたい。
⑨ フォローアップ委員は、教員から提出されたフォローアップ点検資料がすべてそろっているかを点検評価する。次に、試験問題、解答例、採点基準、学生の試験答案等を点検し、評価方法・評価基準が学校及び学科で定めたものと逸脱していないか、シラバスどおりに成績評価をしているか等を点検・評価する。最後に、学生の授業評価と教員の自己点検評価に大きなずれがないか等を点検・評価する。
⑩ フォローアップ委員は上記の評価をもとに、授業担当教員と面談を行い、点検・評価結果を説明する。結果を確認すると同時に、問題点を明らかにし、次年度への改善案を話し合う。
⑪ 教員は改善事項があれば次年度のシラバスを修正し、次年度の授業改善をはかる。
⑫ 面談結果等をフォローアップ委員長に報告する。

⑬　フォローアップ委員長は教員個人の改善状況及びフォローアップ委員の面談記録を点検し、学科別の平均値あるいは学年別の平均値等をホームページで公開する。また、大きな問題あるいは学科間の調整を要するような事象が出れば改善を指示する。

（５）　フォローアップ点検資料

以下のものをファイリングし、フォローアップ点検資料とする。

①平成 20 年度、21 年度、22 年度、23 年度及び 24 年度の成績評価資料をフォローアップ点検資料とする。

②ファイリングの目次（JABEE 審査時と同じ書式）

③平成 20，21，22 年度の 3 年分（以上，JABEE 基準による保存）についてはそのまま残す.
平成 23 年度分（以上，認証評価基準による保存）についても残す.
平成 24 年度の成績評価資料は平成 23 年度と同様に次のものとする．履歴を追うことが困難な場合は、代表的な答案を複数残す。なければ 1 件でも良い。

・最高点の答案（1 件でよい）
・評価「優」の最低レベル
・評価「良」の最低レベル
・評価「可」の最低レベル
・評価「不良」の最高レベル
・学修単位の科目は教室外学習の資料

④定期試験の模範解答（最高点の学生の答案で代用してよい）

⑤クラスごとの評価資料別得点一覧表（教員手帳のコピーも可）

⑥授業評価・達成度評価報告書＆フィードバック報告書（クラスごと、科目ごと）

⑦シラバス（クラスごと、科目ごと）

⑧編入生に対する補習指導及び達成度評価の資料

⑨仮進級者の単位取得の追加認定に関する成績評価資料

（出典　平成24年度学習評価・フォローアップ点検実施要領　抜粋）

資料９－１－①－４

フォローアップ委員による教員面談報告書

平成　23　年度　　教員面談報告書　（機械工学科）

総合評価欄　A：良好，　B：問題あり，　C：不良（改善を指示）

学年	科目（略称）	科目コード		期間	教員	成績評価資料等の保存状況：シラバスの有無	フィードバックの実施	学生答案等	模範解答有無	資料別得点一覧	シラバス記載評価基準の周知	A　学生による授業アンケート結果：2．5より悪い評価について記載 B　教員評価とのギャップ：1.5以上について記載	面談における特記事項	総合評価
1	ものづくり入門	M	01	通	稲葉・山村	○	○	○	○	○	○			A
2	機械工作法	M	02	後	稲葉	○	○	○	○	○	○			A
2	情報処理Ⅰ	M	03	通	本塚・中谷	○	○	○	○	○	○	後期　B 項目18 教員評価基準?	当初の計画（理想）と現実とのギャップがあった点（中谷）	B
2	機械設計製図Ⅰ	M	04	通	山村	○	○	○	○	○	○			A
2	機械工学実習Ⅰ	M	05	通	稲葉	○	○	○	○	○	○			A
3	応用物理Ⅰ	M	06	通	大野	○	○	○	○	○	○	前期　A項目13,16,17,18,19 後期　B項目1,2,3,5,19-26 教員評価忘れ	教員突然の病欠 非常勤講師への周知	B
3	工業力学	M	07	通	石丸	○	○	○	○	○	○			A
3	機構学	M	08	通	山田	○	○	○	○	○	○	B 項目1,2,3　教員評価なし	教員による評価が難しいと判断して記入しませんでしたが，記入しておきました.	B
3	材料力学Ⅰ	M	09	通	小栗	○	○	○	○	○	○	B 項目18　教員評価なし	評価記入に対して疑問点があるが、追加記載で対応する。	B
3	材料学Ⅰ	M	10	前	本塚	○	○	○	○	○	○			A
3	計測工学	M	11	前	小栗	○	○	○	○	○	○	B 項目18 教員評価なし	評価記入に対して疑問点があるが、追加記載で対応する。	B
3	機械設計法Ⅰ	M	12	後	山村	○	○	○	○	○	○			A
3	情報処理Ⅱ	M	13	通	山本	○	○	○	○	○	○	A 項目18　2.5	″授業を改善して欲しかった″の評価が2.5であったが，″そう思わない(評価1)″，″そう思う(評価5)″という評価を行っている事を踏まえアンケート結果を見ると評価2.5は概ね良好であった(現状の講義方法でよく，変更すべき点がない″と捉える事ができる。学生からの本講義の評価は概ね良好と考えている。ただ，本年度の課題はプログラムソースのみの提出であったため，プログラムを作りっぱなし（デバッグを行わない）の学生が散見された。次年度以降はプログラムの仕様書を提出させるなど，自分が作ったプログラムの説明をする機会を設けたいと考えている。	B
3	機械設計製図Ⅱ	M	14	通	山村	○	○	○	○	○	○			A
3	機械工学実験Ⅰ	M	15	後	小栗・山本・本塚	○	○	○	○	○	○	B 項目18 教員評価なし		B
3	機械工学実習Ⅱ	M	16	通	稲葉	○	○	○	○	○	○			A

（出典　点検評価・フォローアップ委員会資料　抜粋）

資料９－１－①－５

岐阜工業高等専門学校における教育改善活動実施規程

制定 平成１７年１０月５日
学校規則第３４号

（趣旨）
第１条 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（教育内容及び教育方法を改善し，向上させるための組織的かつ継続的な取組。（以下「ＦＤ」という。））の推進に関する事項については，この規程の定めるところによる。
（ＦＤ活動）
第２条 本校におけるＦＤ活動は，次のとおりとする。
一 授業参観（全学的に計画し，年１回以上実施）
二 学生による授業評価（前期末及び後期末に実施）
三 教職員の資質向上のための研修会等の実施及び派遣
四 その他のＦＤ活動
（ＦＤ推進組織）
第３条 本校におけるＦＤを推進する組織は，次のとおりとする。
一 学習評価フォローアップワーキンググループ
二 ＦＤ活動推進会議
２ 学習評価フォローアップワーキンググループは，点検評価フォローアップ委員会の下に設置し，同委員会委員長及び委員長が指名する委員９名で構成する。
３ ＦＤ活動推進会議は，教務会議の下に設置し，教務主事，教務主事補佐及び教務主事が指名する教員３名で構成する。
（ＦＤ活動の点検，評価及び改善）
第４条 学習評価フォローアップワーキンググループは，学生による授業アンケートを実施し，それに基づく授業の評価及び改善を行う。
２ ＦＤ活動推進会議は，保護者及び教職員等による授業評価として，授業参観等の企画及び実施を行い，授業の改善を推進する。
３ 前２項に規定するＦＤ活動の具体的な活動内容及び点検・評価の方法は，年度ごとに定める実施要項によるものとする。
４ ＦＤ推進組織は，第１項及び第２項に規定する点検，評価又は改善の実施状況について，スパイラルアップ会議へ報告しなければならない。
（その他）
第５条 この規程に定めるもののほか，ＦＤ活動に関する必要な事項は，別に定める。
附 則
この規程は，平成17年10月5日から施行し，平成16年4月1日から適用する。
附 則（平成22年学校規則第11号）
この規則は，平成22年5月24日から施行し，平成22年4月1日から適用する。
附 則（平成23年学校規則第19号）
この規則は，平成23年5月23日から施行し，平成22年4月1日から適用する。

（出典　岐阜高専Web学内版）

（分析結果とその根拠理由）

教育活動に関するデータや資料は，教務会議及び点検評価・フォローアップ委員会が収集しており，学内ホームページや各学科の資料室，会議室等に蓄積している。

収集・蓄積した資料・データは教務会議及び点検評価・フォローアップ委員会の連携により点検・評価するシステムが確立されている。

以上のことから，教育活動の実態を示すデータや資料を適切に収集・蓄積しており，評価を適切に実施できる体制を整備している。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準に基づいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）

教育の状況に関する自己点検・評価として，将来計画委員会内にある自己点検・評価検討ＷＧから点検項目の指示があれば，点検評価・フォローアップ委員会内にある自己点検・評価実施ＷＧがその点検項目に沿って学校の構成員から意見聴取を行い，その結果をもとに点検評価を行っている。

平成23年度には「授業アンケートのあり方」に関する点検指示があり，資料９－１－②－１に示す自己点検・評価報告書としてまとめた。また，平成24年度には「教職員による本校教育目標の理解度」に関する点検指示があり，全教職員（非常勤講師含む）に意見聴取され，その結果を点検・評価し報告書としてまとめた（資料９－１－②－２）。

同様に，毎年，卒業（修了）時に学生から，本校準学士課程及び専攻科課程のそれぞれの教育目標の満足度及び達成度に関するアンケートを実施し，点検・評価を行っている。資料９－１－②－３に平成24年３月に卒業した本科生の教育目標に関するアンケート結果を示し，その評価を運営会議，教員会議にて報告した（資料９－１－②－４）。

学外関係者の意見聴取として，３年毎に卒業生アンケート及び就職先アンケートを実施している。資料９－１－②－５は平成23年度に実施した就職先アンケートとその評価報告書（抜粋）である。また，学外有識者の意見は，参与会規程（資料９－１－②－６）に基づき，毎年，参与会を実施し意見を聴取している（資料９－１－②－７）。

上述の意見聴取の結果をもとに，学校として自己点検・評価の年度別計画（資料９－１－②－８）を策定し，３年毎にJABEE基準による自己点検・評価を実施している他，５年毎に学校で決めた基準による自己点検・評価を実施し外部評価を受けている。また，７年毎に認証評価基準による自己点検・評価を実施している。2007年度には，JABEE基準による自己点検・評価を実施し外部評価を受けた。資料９－１－②－９に自己点検・評価報告書を示す。

資料９－１－②－１

平成２３年度　自己点検・評価実施報告書

将来計画委員会内の自己点検・評価検討WGから、『授業アンケートのあり方』について24項目の自己点検を行うように指示があり、点検評価・フォローアップ委員会内の自己点検・評価実施WGにおいて、授業アンケートに対する学生や教員の意識調査等を行い、点検評価した結果を記す。

本点検・評価の目的は、授業アンケートがその効果を上げているかどうかを検証し、今後の問題点等を明らかにして、本校の教育活動を一層充実させることにある。

尚、評価は５段階評価とし、点検基準は特に指示がない場合は下記で判断した。

数値化が可能なものについては、90％以上達成されていれば評価5、70％以上90％未満であれば評価4、50％以上70％未満であれば評価3、30％以上50％未満であれば評価2、30％未満であれば評価1、とする。

意識調査等の５段階評価の基準については、最上・最高・最適・優・非常に相当は5、かなり・おおむね・良は4、普通・可は3、あまり・よくない・不良は2、最低・全く・不可は1とする。平均値で処理する場合は四捨五入で整数評価とする。

授業アンケートに対する学生の意識調査のデータについては、報告書末尾の資料1に記す。

観点1: 効果・運用・負荷について

点検項目

①授業アンケートは授業改善のPDCAサイクルにおける位置づけに適合し，効果を上げているか？

①-1 適合

自己点検結果:5

根拠

5 年間にわたり、毎年、学習評価・フォローアップ点検実施要領
http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/followup/jissiyouryou2011.htm
が公開されてきた。その末尾に記載されているように、通年科目については 2 度のスパイラルアップループがあり、よく適合している。教員面談まで実施するシステムは全国でも稀有である。

①-2 効果
一般科目（人文）自己点検結果：4
根拠
自己点検＆フィードバック報告書は全科目について提出されている。また、教員面談の報告でも問題はない。授業参観でも問題点は示されていない。

一般科目（自然）自己点検結果：3
根拠
自己点検＆フィードバック報告書は全科目について提出されており、改善事例もある。また、教員面談の報告でも問題はない。授業参観でも問題点は示されていない。教員による評価を調査したところでは平均点は 3.1 であり、3 とした。

機械工学科自己点検結果：4
根拠
機械工学科教員 10 名に対して，5 段階評価でアンケートを実施したところ，平均値が 3.5 であり評価 4 とした．自己点検＆フィードバック報告書も全科目で提出されており，教員面談，授業参観において大きな問題点は指摘されていない．

電気情報工学科自己点検結果：4
根拠
自己点検＆フィードバック報告書は全科目について提出されており、改善事例は 7 割を超えている。また、教員面談の報告でも問題はない。授業参観でも問題点は示されていない。教員の意識調査をしたところ、平均点は 3.8 であり、評価4とした。

電子制御工学科自己点検結果：3（4：3名　3：7名）
電子制御工学科での調査は，メール本文にアンケート項目を書き，個々に返信してもらう方法にした．メールのプリントアウトに手書きで記入したものも受け取った．所属教員10名すべてから回答を得た．学科の教員について意識調査を 5 段階でしたところ、平均 3.3 であり、評価を3とした。自己点検＆フィードバック報告書は全科目について提出されており、教員面談の報告や授業参観でも問題点は示されていない。

環境都市工学科自己点検結果：4
根拠
環境都市工学科教員 11 名の平均値は 3.6（標準偏差 0.52）であり評価 4 とした。なお、内訳は、評価 4：6 名、評価 3：5 名である。また、毎年実施している教員面談結果において問題はないことを確認している。授業参観においても大きな問題点はない。ただし、新任教員における授業運営に関しては専門基礎グループなどとの教員間ネットワークを通じて改善する必要がある。

建築学科自己点検結果：3
根拠
建築学科の教員について 5 段階で意識調査をしたところ、平均 3.2 であり評価を3とした。

全学科自己点検結果：4
根拠
各学科の評価値の平均は 3.6 であり、評価4とした。各学科から毎年提出されている、面談結果報告書の記載によれば、一部の教員に問題が残るものの、ほとんどの点で問題がないことが報告されている。

（出典　平成23年度第4回点検評価・フォローアップ委員会資料　抜粋）

資料９－１－②－２

平成24年度の自己点検・評価報告書

本校教育目標等の理解度に関するアンケート集計結果と点検・評価　2012.10.3

点検評価・フォローアップ委員会

将来計画委員会内の自己点検・評価検討ＷＧから、『教育目標等の理解度』について自己点検を行うように指示があり、点検評価・フォローアップ委員会内の自己点検・評価実施ＷＧにおいて、教育目標等に対する教職員や非常勤講師の意識調査等を行い、点検評価した結果を記す。

本点検・評価の目的は、教育目標等が教職員（非常勤講師を含む）に周知され，理解されているかどうかを分析，検証することにある。尚、評価は5段階評価とし、下記の基準とした。

	人文 10/10	自然 9/9	M 11/11	E 12/12	D 8/11	C 11/12	A 7/11	教員平均 68/76	総務 24/26	学生 14/15	企画 7/7	技術 13/13	職員平均 58/61	非常勤 21/40	平均 147/177
1. 教育理念について	4.2	3.4	3.7	3.9	4.0	3.9	4.3	3.9	3.1	3.0	4.0	3.0	3.3	3.3	3.7
2. 養成すべき人材像について	4.1	3.3	3.9	3.8	3.9	3.9	4.4	3.9	3.0	3.1	3.7	3.2	3.2	3.2	3.6
3. 教育目標について	3.9	3.4	3.5	3.7	4.0	3.8	4.1	3.8	3.0	2.9	3.4	3.0	3.1	3.3	3.5
4. 各学科で養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標について	3.7	3.0	3.5	3.8	4.0	4.0	4.3	3.8	2.4	2.5	3.0	3.2	2.8	2.9	3.4
5. 環境システムデザイン工学教育プログラムの学習・教育目標について	3.6	2.6	3.3	3.7	4.0	3.7	3.7	3.5	2.2	2.6	2.7	2.4	2.5	2.4	3.1
6. アドミッションポリシーについて	3.4	3.1	3.6	3.6	3.9	3.6	3.4	3.5	2.8	3.1	3.0	2.8	2.9	2.5	3.2
回答率								89%					95%	53%	83%

評価基準：5段階評価（　5：よく知っている，　4:だいたい知っている，　3：何とか知っている，　2：あまり知らない，　1：全く知らない　）

総括

全体として，教育理念，養成すべき人材像，教育目標，各学科での学習・教育目標はよく理解されていると思われる。専攻科課程の学習を含む「環境システムデザイン工学教育プログラム（JABEEプログラム）」の学習・教育目標については，全体として何とか知っている程度であるが，教員の評価だけでみると，おおむね理解されていることがわかる。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）についても，全体として何とか知っているという状況であるが，教員自体はおおむね理解されている。

懸念される点として，非常勤講師には各学科での学習・教育目標やJABEEプログラムの学習・教育目標が十分に理解されておらず，教務及び各学科のサポート教員の連携によって理解度を向上させる工夫が必要であると思われる。

（出典　平成24年度第2回自己点検・評価実施ＷＧ資料）

資料９－１－②－３

準学士課程の教育目標に関するアンケート（５年卒業時）

本科の教育目標に関するアンケート

点検評価・フォローアップ委員会

準学士課程の教育目標は下記のとおりである。本校の教育の改善等のために、卒業時に教育目標に関するアンケートを実施し、その結果を下記に示す。5段階評価で5が最上である。
目標に対する周知を重ねてする必要がある。(3)については学校の教育に対する満足度も達成度もともに低い。次年度の改善等の参考とする。

準学士課程の教育目標
(1) 広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
(2) 基礎学力を身に付け，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成
(3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
(4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
(5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

		5M	5E	5D	5C	5A	平均
1	この教育目標を知っていますか？	2.3	2.7	3.6	2.6	3.9	3.0
2	（1）の目標はこれでよいと思いますか？	3.4	4.1	3.8	3.6	4.1	3.8
3	（2）の目標はこれでよいと思いますか？	3.4	4.2	3.6	3.6	4.0	3.8
4	（3）の目標はこれでよいと思いますか？	3.3	4.2	3.7	3.6	4.1	3.8
5	（4）の目標はこれでよいと思いますか？	3.4	4.3	3.7	3.8	4.1	3.9
6	（5）の目標はこれでよいと思いますか？	3.3	4.2	3.1	3.7	3.5	3.5
7	（1）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.3	3.5	3.1	3.4	3.6	3.4
8	（2）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.3	3.7	2.8	3.4	3.0	3.2
9	（3）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.1	3.1	3.1	2.9	3.5	3.1
10	（4）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.3	3.6	3.1	3.2	3.5	3.4
11	（5）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.3	3.6	3.1	3.2	3.3	3.3
12	あなたは（1）の目標を達成したと感じていますか？	3.2	3.1	3.0	3.4	3.3	3.2
13	あなたは（2）の目標を達成したと感じていますか？	3.3	3.2	3.0	3.4	3.4	3.3
14	あなたは（3）の目標を達成したと感じていますか？	3.1	2.8	2.5	2.7	2.8	2.8
15	あなたは（4）の目標を達成したと感じていますか？	3.3	3.5	3.0	3.4	3.4	3.3
16	あなたは（5）の目標を達成したと感じていますか？	3.1	3.3	2.9	3.2	3.3	3.2

（出典　平成24年度第１回点検評価・フォローアップ委員会資料）

資料９－１－②－４

本科教育目標の理解度に関する点検評価の報告（運営会議・教員会議資料）

運営会議（平成 24 年度第１回）資料
教員会議（平成 24 年度第１回）資料
点検評価・フォローアップ委員会関係

報告事項

１．学習評価・フォローアップ点検ＷＧ関係

実施要領に従って授業アンケートを実施し、フォローアップ点検資料の提出等を実施していただいた。（最終報告は五月末、平成 22 年度分については各学科からの報告を確認し、教員側での改善にはおおきな問題はないと判断した。）

学生の授業満足度及び達成度の自己評価について、クラス単位で公開した授業アンケート結果をもとに、ＷＧで以下のように点検・評価した。

（１）授業アンケート結果に関する平成２２年度からの追跡事項について

①授業に対する満足度について

追跡調査をしているクラス（２Ｅ、３Ａ、４Ａ）について改善が認められた。

②達成度の自己評価について

追跡調査をしているクラス（３Ａ）について改善が認められた。

詳細は点検評価・フォローアップ委員会掲示板に記載

（２）平成 23 年度授業アンケートに基づく学生の授業満足度及び達成度の自己評価について

平均値が 3.4 以下のクラスについて検討した結果、満足度調査については、とくに追跡を行う必要がないと判断した。

達成度の自己評価については、

①５Ｄの平均値が 3.3 以下の年が続いており、平成２４年度の５Ｄの値を注視したい。

②３Ｅの履歴を追うと１Ｅで 3.3、２Ｅで 3.3、３Ｅで 3.2 であり、平成２４年度の４Ｅの値を注視したい。

③３Ｃの履歴を追うと１Ｃで 3.5、２Ｃで 3.4、３Ｃで 3.2 と落ち込んでいる。平成２４年度の４Ｃの値を注視したい。

詳細は点検評価・フォローアップ委員会掲示板に記載

（３）平成２３年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査について

目標の周知に一考を要する。結果は点検評価・フォローアップ委員会掲示板に記載。

２．中期計画ＷＧ関係

平成２２年度分についてスパイラルアップ会議に報告済み。平成２３年度の中期計画ロードマップの点検評価については、本年度の４月のＷＧで検討する。

３．自己点検・評価実施ＷＧ関係

（１）就職先アンケートについて

結果及び分析をホームページで外部公開する。

（２）授業アンケートに関する自己点検・評価実施報告書について

授業アンケートに関する自己点検・評価実施報告書を点検評価・フォローアップ委員会掲示板に記載する。

（３）卒業生・修了生アンケートについて

機構のアンケートに加え、本校の教育目標等について実施する。Web 回答とし、ＵＲＬを送る。Web 回答は５月より開始とする。

４．その他

①前期終了科目で昨年と同じ科目の場合は昨年度のアンケート結果を授業初めに示し、改善案を学生に示してください。

②点検評価・フォローアップ資料の達成度＆フィードバック報告書の提出を忘れないでください。

③平成 25 年度に予定されている認証評価の実地審査では、準学士課程、専攻科課程とも、すべての学年のすべての科目の成績評価資料が対象になります。成績評価資料の保存も JABEE 対応から認証評価対応に変えております。

（出典　平成24年度運営会議・教員会議資料）

資料９－１－②－５

就職先アンケートの結果と評価

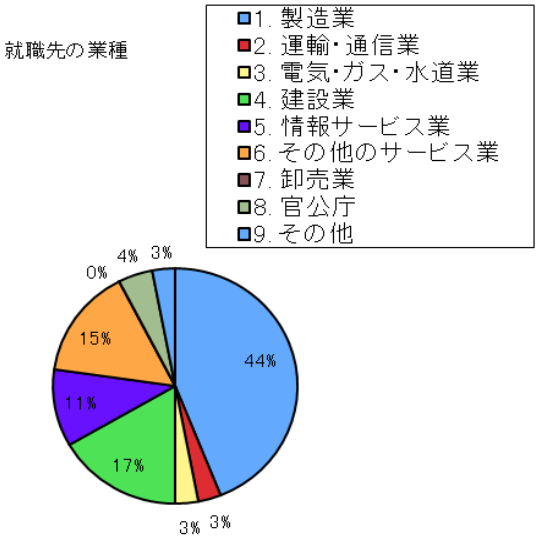
点検評価･フォローアップ委員会
平成23年度実施

本校の教育目標、教育方法、教育組織等を、継続的に改善していくために、本科卒業生及び専攻科修了生の就職先にアンケートを依頼しました。その結果を分析検討したので報告します。

本科生アンケート発送先は 119 団体であり、回答は 52 団体（回収率 44%）でした。また専攻科生アンケート発送は 49 団体であり、回答は 16 団体（同 33%）、合計で 68 団体（同 40%）でした。

A.　御社の業種についてお答えください。（本科生＋専攻科生就職先）

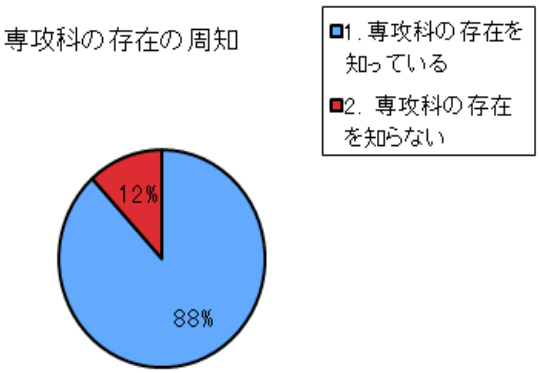
1.　製造業	29	44%
2.　運輸・通信業	2	3%
3.　電気・ガス・水道業	2	3%
4.　建設業	11	17%
5.　情報サービス業	7	11%
6.　その他のサービス業	10	15%
7.　卸売業	0	0%
8.　官公庁	3	5%
9.　その他	2	3%



分析
五年前に比べて情報サービス業及びその他のサービス業が微増している。また、建設業が10％減っている。

B. 岐阜高専には本科（修業年限5年）とその上に学士認定の専攻科（同2年）がありますがご存知ですか。（本科生就職先）

1. 専攻科の存在を知っている	45	88%
2. 専攻科の存在を知らない	6	12%



分析
五年前に比べて、専攻科の存在を知っている企業が16％増えている。専攻科の充実の成果だと思われる。

（出典　平成23年度点検評価・フォローアップ委員会資料　抜粋）

資料９－１－②－６

岐阜工業高等専門学校参与会規程

制定　平成16年８月２５日
学校規則第３８号

（設置）
第１条　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，広く学外有識者の意見を聴くため，参与会を置く。
（任務）
第２条　参与会は，次の各号に揚げる事項について，校長の諮問に応じて審議し，及び校長に対して助言又は勧告を行うものとする。

一 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
二 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
三 その他本校の運営に関する事項
（組織）
第３条 参与会は，次の各号に掲げる参与若干名で組織する。
一 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の教員等
二 産業・経済界の関係者
三 本校の所在する地域の関係者
四 本校を卒業又は修了した者
五 その他高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者
（委嘱）
第４条 参与は，校長が委嘱する。
（任期）
第５条 参与の任期は，２年とする。ただし，再任を妨げない。
２ 前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（会長及び副会長）
第６条 参与会に会長及び副会長を置き，それぞれ委員の互選とする。
２ 副会長は，会長を補佐し，会長に事故があるときは，その職務を代行する。
（運営）
第７条 参与会の会議は，校長が招集し，会長がその議長となる。
（庶務）
第８条 参与会の庶務は，企画室において処理する。
附 則
１ この規程は，平成１６年８月２５日から施行する。
２ 岐阜工業高等専門学校有識者との懇話会要綱（平成１３年１２月５日校長裁定）は廃止する。
附 則（平成19年学校規則第29号）
この規程は，平成19年4月1日から施行する。

（出典　岐阜工業高等専門学校規則集）

資料９－１－②－７

平成23年度参与会議事録

平成２３年度参与会（平成２３年１２月２０日開催）指摘事項及び対応策等

１．平成22年度参与会指摘事項及び対応策について

参与からの指摘事項等	本校からの説明と対応策等
【若井参与】 入試倍率が1.9倍のうち何割が受験して、定員の何割増しで採られて、成績はどんな様子でしょうか。	【加藤教務主事】 入試は5学科、各学科定員40名で、[redacted]で採っています。
【若井参与】 定員の５％追加くらいですが、入学試験の下位の得点はどのようになっているでしょうか。	【加藤教務主事】 学力選抜試験では、英語・国語・数学・理科の4科目で400点満点と調査書の[redacted]満点、合計[redacted]点満点です。 学科により異なりますが、ボーダーラインが[redacted]点位です。 [redacted]点で拮抗しています。
【神野参与】 中学校での説明会では、生徒だけでなく保護者も参加される中で説明することがあると思いますが、最近では特に保護者に対しての説明が重要になってきており、岐阜高専の場合はいかがでしょうか。	【加藤教務主事】 保護者に説明する機会として、中学校が主催する進路説明会で、中学生向けではありますが保護者も参加しており、約15分程度の時間で学校概要や入試について説明しています。
【神野参与】 質問が出ると思いますが、どんな質問が多いですか。	【加藤教務主事】 特に質問は出ないです。別の機会として本校へのＰＴＡ訪問では、高専や実業高校を回られる中に岐阜高専を含めていただくことがあり、その時に多目的ホールで20～30分程度、本校の概要説明と入試関係の説明をしています。
【神野参与】 他県出身の岐阜高専生はどれ位いるでしょうか。	【加藤教務主事】 学校要覧42ページにあるように、県別出身者は岐阜県が83.6％、愛知県が11.8％、滋賀県が2.5％の割合です。
【若井参与】 中学校の説明会の資料では、大垣や岐阜市以外が多く、岐阜市には出前授業があるけれども、進路説明会が少ないのは、岐阜市は十分説明が行渡っているとか、何か理由があるのですか。	【加藤教務主事】 中学校で行なう進路説明会は、県内の全中学校に案内を送り、応募してもらう形になっています。 本校の教員が県内や近隣の県の中学校訪問を行っており、その際の進路指導担当教員の感触から、岐阜市内では岐阜高専のことを認知されており、中学校の生徒にも浸透している印象です。

（出典　平成２３年度参与会資料　抜粋）

資料９－１－②－８

自己点検・評価の年度別計画

スパイラルアップ点検・改善	毎年
中期計画ロードマップ達成度の自己点検	毎年
JABEE 基準による自己点検評価・改善	3年に1回
外部評価、自己点検・評価報告書作成	5年に1回
認証評価基準による自己点検評価・改善	7年に1回
卒業生・就職先アンケート	3年に1回

年度	事　項	備　考
2002 （平成14年）	外部評価、自己点検・評価報告書作成 JABEE 自己点検書作成 卒業生アンケート	5年に一度の外部評価 JABEE 試行審査
2003 （平成15年）	JABEE 自己点検書作成 JABEE 基準による自己点検評価・改善	JABEE 本審査
2004 （平成16年）	JABEE 基準による自己点検評価・改善	JABEE 中間審査前年 独法化
2005 （平成17年）	認証評価基準による自己点検評価・改善 卒業生・就職先アンケート	JABEE 中間審査
2006 （平成18年）	2005 年度分スパイラルアップ点検・改善 認証評価　自己評価書　作成	認証評価
2007 （平成19年）	2006 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検 JABEE 基準による自己点検評価・改善 外部評価、自己点検・評価報告書作成	JABEE 本審査前年 5年に一度の外部評価
2008 （平成20年）	2007 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検 JABEE 自己点検書作成 卒業生・就職先アンケート	JABEE 本審査
2009 （平成21年）	2008 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検	
2010 （平成22年）	2009 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検 JABEE 基準による自己点検評価・改善（免除）	JABEE 中間審査前年
2011 （平成23年）	2010 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検 卒業生・就職先アンケート	JABEE 中間審査（免除）
2012 （平成24年）	2011 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検 認証評価基準による自己点検評価・改善 外部評価、自己点検・評価報告書作成	認証評価前年 5年に一度の外部評価
2013 （平成25年）	2012 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検 JABEE 基準による自己点検評価・改善 認証評価　自己評価書　作成	JABEE 本審査前年 認証評価

（出典　平成19年度第2回点検評価・フォローアップ委員会議事要旨）

資料９－１－②－９

Ⅰ　「環境システムデザイン工学」教育プログラムの点検評価

第Ⅰ部では日本技術者教育認定機構(JABEE)で認定されたプログラムの点検を実施した。JABEE の基準による自己点検評価を表１に示す。

表１　自己点検総括表

基準の各項目に対する自己点検結果

基準の各項目		点数（１～５）
基準１：　学習・教育目標の設定と公開		5
基準２：　学習・教育の量		5
基準３：　教育手段	(1) 入学および学生受け入れ方法	4
	(2) 教育方法	4
	(3) 教育組織	4
基準４：　教育環境	(1) 施設，設備	4
	(2) 財源	4
	(3) 学生への支援体制	4
基準５：　学習・教育目標の達成		4
基準６：　教育改善	(1) 教育点検	5
	(2) 継続的改善	5
補則：　分野別要件		5

自己点検の根拠を以下に記す。引用・裏付資料は本報告書では割愛する。

（出典　平成19年度自己点検・評価報告書　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

教育の状況に関する自己点検・評価として，自己点検・評価検討ＷＧが点検項目を検討及び指示を出し，自己点検評価実施ＷＧが自己点検・評価を実施し報告書（資料９－１－②－１，２，４など）にまとめている。その中で学校の構成員，学外関係者の意見（資料９－１－②－３，５，７など）を聴取しており，これらの結果をもとに，資料９－１－②－８で示したように学校として策定した基準で計画的かつ適切に自己点検・評価を実施している（資料９－１－②－９など）。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

毎年の恒常的な点検評価・改善システムとしてスパイラルアップ会議が担当している。中長期的な点検評価・改善については将来計画委員会が担当している。

９－１－②で記述した各種自己点検・評価の結果は，すべてスパイラルアップ会議に集約され審議される。同会議では，前年度からの改善状況を確認すると同時に今年度の問題点等を明らかにし，新たな改善事項を年度初めに各会議，委員会，ワーキンググループに対し指示を出す。スパイラルアップ会議規程を資料９－１－③－１，教育点検システムに関係した組織相互関連図を資料９－１－③－２に示す。

教育課程や学習・教育目標の見直しは専攻科内にあるカリキュラム検討ＷＧで改善指示される。

資料９－１－③－１

岐阜工業高等専門学校スパイラルアップ会議規程

制定 平成１７年１月６日
学校規則第２号

（設置）
第１条 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，スパイラルアップ会議を置く。
（審議事項）
第２条 スパイラルアップ会議は，次の各号に掲げる事項を調査審議する。
一 教育点検システムに関すること。
二 学校運営の点検及び改善に関すること。
三 各会議・委員会等からの活動報告書の点検評価及び改善に関すること。
四 外部評価に対する点検評価及び改善状況の報告に関すること。
五 自己点検結果に基づく継続的改善に関すること。
六 その他点検評価に関すること。
（組織）
第３条 スパイラルアップ会議は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
一 校長
二 教務主事，研究主事，学生主事及び寮務主事
三 専攻科長
四 ＪＡＢＥＥプログラム責任者
五 点検評価･フォローアップ委員会委員長
六 事務部長
七 総務課長及び学生課長
八 その他校長が必要と認めた者
（任期）
第４条 前条第８号の委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
２ 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（会議の招集及び議長）
第５条 スパイラルアップ会議は，校長が招集し,その議長となる。
２ 校長に事故があるときは，教務主事がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第６条 校長が必要と認めたときは，スパイラルアップ会議に構成員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。
（庶務）
第７条 スパイラルアップ会議の庶務は，総務課において処理する。
附 則
１ この規程は，平成17年1月6日から施行する。
２ この規程の施行後，最初に委嘱される第３条第８号の委員の任期は，第４条第１項の規定にかかわらず，平成

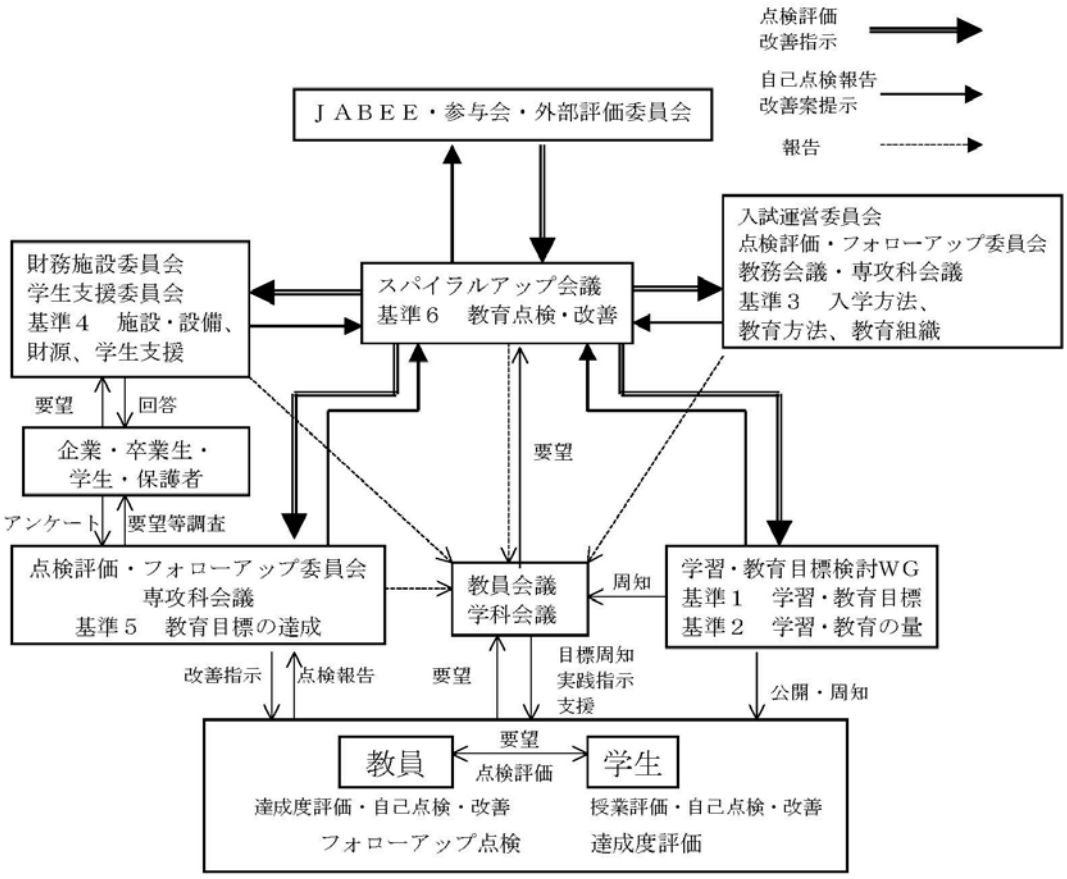
17年3月31日までとする。
　附 則（平成19 年学校規則第16号）
この規程は，平成19年4月1日から施行する。
　附 則（平成20 年学校規則第8号）
この規程は，平成20年3月6日から施行する。

（出典　岐阜工業高等専門学校規則集）

資料９－１－③－２

教育点検システムに関する組織相互関連図

スパイラルアップ会議による教育点検システムの概略（ＪＡＢＥＥ対応の場合）



スパイラルアップ会議による教育点検システムの概略

1）年度末に各会議・委員会・WG は JABEE のプログラム点検書（基準１から５）の形式で自己点検を行い、改善案を盛り込んだ活動報告書をスパイラルアップ会議へ提出する。
2）スパイラルアップ会議自体も自己点検する。（基準６．１）
3）スパイラルアップ会議は活動報告書を点検評価し、改善状況を確認すると同時に問題点等を明らかにし、あらたな改善を年度初めに指示する。（基準６．２）
4）結果は改善状況点検書に纏め、点検・評価・改善によりスパイラルアップしている状況を参与会に毎年報告し、教育点検システムの機能を点検する。（基準６．２）
5）学生および教員はフォローアップ点検を実施し、恒常的・継続的に教育を点検・改善しその状況を点検評価・フォローアップ委員会に報告する。
6）専攻科入学時に、学生はプログラムの学習・教育目標の達成度を自己点検し、専攻科会議に報告する。専攻科会議は専攻科修了判定時に達成度評価をする。
7）意見箱を通じて学生および教職員の要望は収集する。保護者の意見は地区懇談会、保護者懇談会、授業参観等を通じて収集する。教員会議で公開し、回答が必要なもの、対応が必要なものには対処する。企業および卒業生の意見は定期的にアンケートを実施し、要望を取り入れる。
8）教育点検システムの改善状況は、自己点検書、プログラム点検書等を提示し、数年ごとに JABEE あるいは外部評価委員会による外部評価を受ける。
7）本システムは JABEE プログラムの教育点検システムに対応しているが、学位授与機構による認証評価、および機構本部による中期目標達成度点検にも同様の手法で対応する。

（出典　岐阜高専学外Web資料）

（分析結果とその根拠理由）

スパイラルアップ会議が各種の点検・評価から改善に結び付け，各会議，委員会，ＷＧに対して改善を指示するシステムを整備している。

観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

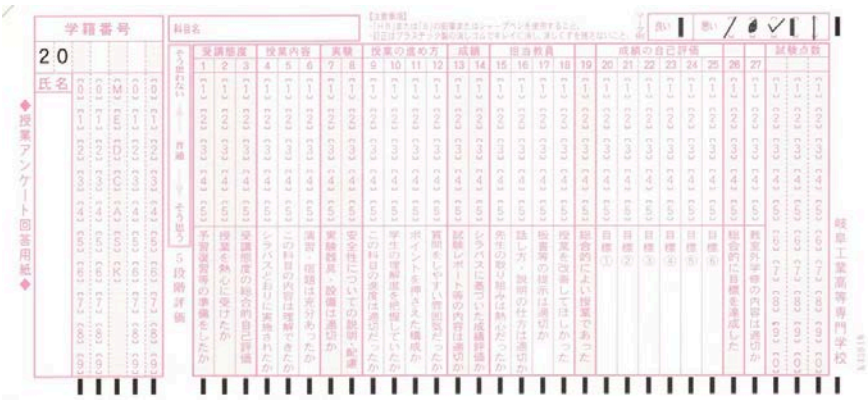
学習評価・フォローアップ点検実施要領（前出　資料９－１－①－３）に基づき，通年科目については前期末及び後期末の年２回，半期科目については学期末の１回，学生による授業アンケート（資料９－１－④－１）を実施している。評価項目として，授業評価，達成度評価，満足度評価，学習環境評価があり，教員も同項目について自己点検・評価を実施している。また，非常勤講師の科目も同様に実施される。

１回目のアンケート結果における評価の低い項目について，教員及び非常勤講師は改善案を検討し，学生に改善事項を明言し，後期の授業において改善する。その際，授業参観による教職員や保護者による報告書（資料９－１－④－２）の内容も教員へフィードバックし，授業内容，教材，教授法等の改善案に反映し質の向上を図る。２回目の授業アンケートで実際に改善されたかどうかを学生が評価する。改善内容と改善された例（項目10）を資料９－１－④－３に示す。半期科目については次年度以降のシラバスや授業方法等にフィードバックし反映させる。

これらの改善活動状況を，個々の教員は全科目において授業評価・達成度評価報告書&フィードバック報告書（前出　資料９－１－④－３）にまとめ，各学科のフォローアップ委員に提出し，報告書は観点９－１－①で述べたように各科の資料室等に保存される。フォローアップ委員は提出された報告書をもとに教員面談を実施して改善状況を確認する。面談結果により教員は改善事項があれば，次年度のシラバスを修正し改善を図る。その結果は，教員面談報告書（前出　資料９－１－①－４）として点検評価・フォローアップ委員会に報告され，同委員会の掲示板（学内Webサイト，資料９－１－④－４）から閲覧できる。さらに同委員会は上部組織のスパイラルアップ会議へ結果を報告（資料９－１－④－５）することで学校として把握するシステムとなっている。

資料９－１－④－１

授業アンケート



（出典　点検評価フォローアップ委員会資料）

資料９－１－④－２

授業参観報告書

平成 24 年度　授業参観報告書（教職員用）　5 月 14 日（月）～18 日（金）

参観者氏名	坂本　淳	参観者所属（科・課・係等）	環境都市工学科
授業参観日	平成 24 年 5 月 18 日　金曜日　第　II　限目		
授業科目名	数理計画学 II	参観クラス	環境都市工学科　4 学年
授業担当教員名	鈴木　正人	参観時間	約 25 分

【良かった点・参考になった点】
① 教科書に教員が直接書き込むスタイルが直感的でわかりやすい．最近は学生から教科書を購入したが使わない講義が少なくないと話を聞くが，こういう手法であればその問題も解消されるのではないか．
② 教員からの学生を指名しない解答に関する問いかけに対して，自発的に学生が答える場面に感心した．

【改善するとよいと思った点】
① 書面カメラをメインで使って書き込んでいくタイプだと難しいかもしれないが，学生の顔色をうかがう場面がもう少し多くてもよいのではないかと思った．

【参観した感想・その他】
・書面カメラはテレビやプレゼンテーション資料等と異なり，字が斜めになったりするため，長時間これを使った授業だと酔う（頭が痛くなる）学生もいるのではないか．
・ＣＲは参観しづらい構造であるように感じた（後部にスペースが少なく，自由に出入りできない）．

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は教務係長にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．
☆締切を平成 24 年 5 月 25 日（金）とさせて頂きます．
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

（出典　教務掲示板）

資料９－１－④－３

授業評価・達成度評価報告書及びフィードバック報告書

授業評価・達成度評価報告書　及び　フィードバック報告書

年度	授業科目	学年・学科：	2C
H21	基礎力学	担当教員：	水野

開講期間　通年

	アンケート項目	第1回評価 学生	第1回評価 教員	第2回評価 学生	第2回評価 教員	学生に説明した改善内容
1	予習復習などの必要な準備をしましたか	4.0	4	4.1	4	
2	授業を熱心に受けましたか	4.4	4	4.4	4	
3	総合的にみて、この科目の受講態度に対する総合評価はよいですか	4.2	4	4.2	4	
4	この科目はシラバスに示された内容に基づいて行われましたか	4.1	3	4.3	4	
5	この科目の内容は理解できましたか	3.7	3	3.8	4	
6	この科目の理解を深める演習・宿題は充分ありましたか	4.0	3	4.1	3	
7	実験器具、設備（製図器具、CAD等を含む）は適切でしたか					
8	安全性についての説明や配慮がなされていましたか					
9	この科目の進度は適切でしたか	3.9	4	4.2	4	
10	先生は学生の理解度を把握していましたか	3.6	3	3.8	4	学生の理解度を把握しながら授業を進行していく
11	ポイントを的確に押さえた構成になっていましたか	3.8	4	4.0	4	
12	質問をしやすい雰囲気でしたか	3.8	4	4.0	4	
13	試験問題、レポート等の内容は適切でしたか	3.7	4	4.0	4	
14	公平かつ正確な成績評価が行われましたか	4.1	4	4.4	4	
15	この科目への取り組みは熱心でしたか	4.5	4	4.5	4	
16	話し方、説明の仕方は適切でしたか	4.0	3	4.0	4	
17	板書、書画カメラ、OHP等などによる資料提示は適切でしたか	4.1	4	4.1	3	
18	授業の進め方をもっと改善してもらいたかったですか	2.0	3	1.9	2	
19	総合的に判断して、この授業は良かったと思いましたか	3.8	4	4.0	3	
20	目標①　力の性質をほぼ正確(6割以上)に理解ができる	3.5	3			備考
21	目標②　力のつり合い式をたてて，解くことが8割以上できる	3.3	3	3.7	3	
22	目標③　物体内部の断面の性質についてほぼ正確(6割以上)に理解できる	3.0	3	3.6	3	
23	目標④					
24	目標⑤					
25	目標⑥					
26	総合的に判断して、この科目の目標・目的を達成したと思いましたか	3.4	3	3.6	3	
27	教室外学修の内容は適切でしたか					

（出典　成績評価資料）

資料９－１－④－４

平成23年度教員面談報告書の学内公開

（出典　学内Web資料）

資料９－１－④－４

スパイラルアップ会議に提出された教員面談報告

平成２４年度 第３回スパイラルアップ会議議事要旨

開催日時：平成２４年１２月４日（火）～１２月７日（金）
開催場所：メール会議
構 成 員：校長，教務主事，研究主事，学生主事，寮務主事，ＪＡＢＥＥプログラム責任者（柴田），
　　点検評価・フォローアップ委員長（水野和憲），久世学科長
　　事務部長，総務課長，学生課長
陪 席：（記録）若園（総務課長補佐）

議 題：

Ⅰ 略

Ⅱ 点検評価・フォローアップ委員会関係

審議事項

１．自己点検・評価実施ＷＧ関係
（１）卒業生アンケート（平成23 年度実施）の点検・評価　　別紙 4/12～8/12
・機構による卒業生アンケートと同時実施のため，アンケート実施は平成24 年3 月～9 月
・回収率：6.2%（12 名／平成18 年度本科卒業生193 名）
・別紙の結果（分析）についてご審議下さい。
・その後，本校トップページ下「教育改善」にて学外公開予定

報告事項

（２）本校教育目標等の周知に関するアンケートの点検・評価　別紙 9/12～12/12

・自己点検・評価検討WG（将来計画委員会内）からの点検事項 →答申（10/10 教務主事へメール）

・点検評価・フォローアップ掲示版にて学内公開（教職員all でのメールにて周知）

http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/followup/mokuhyou_kekka_H24.pdf

（３）平成23 年度 教員面談／フィードバック 実施状況最終報告

一般科目（人文）：問題なし

一般科目（自然）：問題なし

機械工学科 ：問題なし

電気情報工学科 ：成績評価資料の不足が一部（非常勤）で見られるが、その他は問題なし

電子制御工学科 ：問題なし

環境都市工学科 ：成績評価資料の不足が一部（非常勤）で見られるが、その他は問題なし

建築学科 ：成績評価資料保存状況に問題がある。昨年度に引き続き，改善を要する。

各科，各科目の実施状況については点検評価・フォローアップ委員会掲示板に掲載

http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/followup/followup.html

（４）その他

・機構による卒業生アンケートの結果及び分析は，機構からデータが届き次第実施する。

Ⅲ その他

（出典　平成24年度第3回スパイラルアップ会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業アンケート結果や教職員及び保護者からの授業参観報告（資料９－１－④－２）を教員（非常勤講師含む）へフィードバックし，個々の教員は，次学期もしくは次年度の授業内容，教材，教授技術等について改善活動を行っている。これらの内容を授業科目ごとに報告書（資料９－１－④－３）にまとめ，点検評価・フォローアップ委員長が最終的にスパイラルアップ会議に報告することで，全科目における改善活動状況を学校として把握している（資料９－１－④－４，５）。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

本校教員および技術職員の研究活動は、教育方法改善に関する研究活動を含めて積極的に推進されている。その成果の一つとして科学研究費補助金の平成23年度の採択課題一覧を資料９－１－⑤－１に示す。このほかにも共同研究や他の外部資金の獲得を通して、教育研究の質の改善を進めている。平成21－23年度の外部資金の獲得状況を資料９－１－⑤－２に示す。また、教員の研究活動について、平成７－23年度の実績を本校紀要の研究業績報告から資料９－１－⑤－３に示す。また、学生の研究活動についても、平成19－23年度の専攻科修了判定資料より、外部発表回数とTOEIC平均点の推移を資料９－１－⑤－４に示す。

教員の研究テーマのいくつかは教育の質の改善にかかるテーマでもあり、教育環境や質の改善に寄与している。また、近年はアウトリーチ活動やリテラシー活動への学生の参加を通した教育研究活動も積極的に推進されている。平成23年度のアウトリーチ教育活動推進室のテーマ及び参加学生数一覧を資料９－１－⑤－５に示す。

平成２３年度科学研究費補助金採択課題一覧を資料９－１－⑤－１に示す。

資料９－１－⑤－１

平成24年度　科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金採択状況

件数	研究種目	課題番号	所属学科	職名	氏名	課題名	上段：直接経費 下段：間接経費	配分合計額	期間
1	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	21510200	電気情報工学科	教授	熊崎　裕教	非対称断面グレーティングファイバによる曲げ方向検出可能な斜面崩壊防止センサの開発	500 150	650	21～24
2	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	22500873	電子制御工学科	准教授	森　貴彦	メカトロニクスの仕組みを五感で理解する自己増殖型学習教材の開発	500 150	650	22～24
3	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	22560212	機械工学科	教授	石丸　和博	高酸素還元活性を示すカーボンアロイ触媒の非平衡プラズマ化学反応による気相合成	500 150	650	22～24
4	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	22560258	電気情報工学科	教授	稲葉　成基	光学式振動型センサのための光ファイバ先端でのマイクロ光造形システムの構築	500 150	650	22～26
5	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	22560312	電気情報工学科	教授	所　哲郎	撥水性の表面粗さ及び温度依存を利用した高分子電気絶縁材料劣化診断技術の開発	500 150	650	22～24
6	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	23501193	電子制御工学科	教授	臼井　敏男	ネットワーク実験室を利用したリアルデモ実験システムの開発	700 210	910	23～25
7	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	23520740	一般科目（人文）	教授	清水　晃	電気・電子工学系研究室における会話の英語・中国語教材化に関する研究	700 210	910	23～25
8	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	23560247	機械工学科	教授	片峯　英次	複雑な熱弾性場・熱対流場における多目的形状最適化の解法およびその検証	1,500 450	1,950	23～25
9	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	23560349	電気情報工学科	准教授	富田　睦雄	レアアースを材料に用いない同期リラクタンスモータの高出力化に貢献する新しい制御法	1,300 390	1,690	23～25
10	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	23560377	電気情報工学科	准教授	羽渕　仁志	金属フリーシリコンクラスレート化合物の合成と熱電変換材料への応用	500 150	650	23～26
11	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	23560690	建築学科	教授	犬飼　利嗣	セメントの代替材を目的とした活性化フライアッシュの開発と実用化	3,300 990	4,290	23～25
12	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	23560759	建築学科	教授	鶴田　佳子	定性的・数量的内容を重視したデザインガイドラインの策定過程と審査方法の調査と提案	1,600 480	2,080	23～25
13	基盤研究(C) 一般研究 継続課題	23500029	電子制御工学科	准教授	遠藤　登	証明検証システム実現へ向けた推論ライブラリの作成	900 270	1,170	23～26
14	基盤研究(C) 一般研究 新規課題	24560317	電子制御工学科	教授	北川　秀夫	搭乗者にも介助者にも安全で操作性が良い全方向移動車椅子	1,400 420	1,820	24～26
15	基盤研究(C) 一般研究 新規課題	24560630	環境都市工学科	教授	和田　清	水中音響特性に着目した魚道の機能評価と河川魚類生息場の自然度診断システム	2,600 780	3,380	24～26
16	挑戦的萌芽研究 継続課題	23656372	建築学科	准教授	今田　太一郎	まちづくりにおける隣接地域間の相補的ネットワーク形成に関する実践的研究	500 150	650	23～25
17	若手研究(B) 継続課題	22760138	機械工学科	准教授	山本　高久	肝移植による肝臓内血液バランス崩壊の数値流体力学解析に関する研究	800 240	1,040	22～24
18	若手研究(B) 継続課題	23720166	一般科目（人文）	准教授	野々村　咲子	ディケンズ作品における衛生改革と児童精神科学との相互関係の分析	500 150	650	23～24
19	若手研究(B) 継続課題	23730849	一般科目（人文）	講師	空　健太	優れた世界史教育カリキュラムの特質および教授方法に関する調査的研究	900 270	1,170	23～24
20	若手研究(B) 継続課題	23760396	電子制御工学科	准教授	小林　義光	磁気浮上搬送制御のための三次元位置推定および浮上・搬送制御の実現	600 180	780	23～25
21	若手研究(B) 継続課題	23760559	建築学科	准教授	青木　哲	アトピー性皮膚炎に代表される幼児の皮膚疾患の実態把握とその予防対策	500 150	650	23～24
22	若手研究(B) 継続課題	23760560	建築学科	講師	中谷　岳史	地球温暖化下にある日本の住宅温熱環境におけるアダプティブモデルの提案	300 90	390	23～24
23	若手研究(B) 継続課題	23760597	建築学科	准教授	藤田　大輔	乳幼児の遊び環境における必要なリスクの抽出とそのあり方	1,000 300	1,300	23～25
24	研究活動スタート支援	24860068	電気情報工学科	助教	白木　英二	複屈折光ファイバーにおけるパルス捕捉現象を用いた非線形光ループミラーの開発	1,300 390	1,690	24～25
25	奨励研究	24910023	技術室	技術専門職員	奥村　政充	ものづくりのプロセスの中で幾何公差を実践的に学ぶ教育プログラムの構築	400	400	24
26	奨励研究	24920009	技術室	技術専門職員	中澤　里	鉄筋腐食可視化システムの開発と教材としての活用	600	600	24

（出典　総務課資料）

平成２３年度科学研究費補助金採択課題一覧を資料９－１－⑤－２に示す。

資料９－１－⑤－２

受託研究・共同研究・寄附金受入、技術相談受付、知的財産、科学研究費の動向

項目名	内訳	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
①受託研究	件数	2	2	6
	金額（円）	2,950,000	1,010,000	6,659,500
②共同研究	件数	23	23	20
	金額（円）	12,080,000	10,868,500	10,311,500
③寄附金	件数	30	30	42
	金額（円）	16,891,190	17,536,080	20,564,210
④技術相談	件数	55	33	27
⑤知的財産	出願件数	1	0	0
	審査請求件数	3	1	0
	拒絶査定に対する意見書・手続補正書提出件数	1	5	0
	特許登録件数	1	2	0
⑥科学研究費	件数	12	12	25
	金額（円）	15,040,000	15,740,000	41,010,000
合計	件数	123	100	120
	金額（円）	46,961,190	45,154,580	78,545,210

合計件数・金額に含まない

（出典　H24教員会議第2回研究主事報告資料）

平成７－23年度の本校紀要への教職員研究活動報告数一覧を資料９－１－⑤－３に示す。

資料９－１－⑤－３

岐阜高専教職員研究活動　１６年の推移（紀要教員研究活動の概要より）

年　　度	期　　間	１．著書	２．学術雑誌に掲載の論文	３．特許等	４．口頭発表の研究	その他１～４に準ずるもの	新任教員の主要な論文	合計
平成７年度	Ｈ　７．４．１～　８．３．３１	10	75	3	84	36	6	214
平成８年度	Ｈ　８．４．１～　９．３．３１	8	79	2	101	34	5	229
平成９年度	Ｈ　９．４．１～１０．３．３１	2	108	0	85	36	7	238
平成１０年度	Ｈ１０．４．１～１１．３．３１	13	91	0	113	29	7	253
平成１１年度	Ｈ１１．４．１～１２．３．３１	10	82	2	111	42	21	268
平成１２年度	Ｈ１２．４．１～１３．３．３１	10	70	1	112	39	16	248
平成１３年度	Ｈ１３．４．１～１４．３．３１	13	95	2	104	38	2	254
平成１４年度	Ｈ１４．４．１～１５．３．３１	8	74	0	119	50	7	258
平成１５年度	Ｈ１５．４．１～１６．３．３１	11	90	1	137	43	11	293
平成１６年度	Ｈ１６．４．１～１７．３．３１	8	84	2	139	47	21	301
平成１７年度	Ｈ１７．４．１～１８．３．３１	9	94	0	107	49	8	267
平成１８年度	Ｈ１８．４．１～１９．３．３１	12	86	1	175	60	7	341
平成１９年度	Ｈ１９．４．１～２０．３．３１	14	70	4	141	70	63	362
平成２０年度	Ｈ２０．４．１～２１．３．３１	5	61	7	119	54	55	301
平成２１年度	Ｈ２１．４．１～２２．３．３１	6	60	2	131	54	5	258
平成２２年度	Ｈ２２．４．１～２３．３．３１	6	57	5	138	49	39	294
平成２３年度	Ｈ２３．４．１～２４．３．３１	平成２４年度に集計						

（出典　岐阜高専紀要32-47号より取りまとめ）

平成19－23年度の専攻科修了生の学会発表件数とTOEIC平均点一覧を資料９－１－⑤－４に示す。

資料９－１－⑤－４

専攻科修了生の学会等における発表件数とTOEIC平均点の一覧

項目	系	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
学会発表	S系	29	24	32	30	43
	K系	12＊	31	34	15＊	14＊
TOEIC	S系	493	493	467	467	532
	K系	473	489	467	446	476

＊学外発表一回以上の確認データのみ（ひとり1回としてカウント）

（出典　各年度専攻科修了認定資料より取りまとめ）

平成23年度のアウトリーチ教育活動推進室のテーマ及び参加学生数一覧を資料９－１－⑤－５に示す。

資料９－１－⑤－５

平成 23 年度　ものづくり（科学技術）リテラシー教育実習　テーマ一覧

番号	テーマ名	指導教員	参加学生
1	カップ麺容器でホバークラフトを作ろう	小栗久和	6
2	コーディネイトに挑戦～自分の部屋を作ろう～	羽渕仁恵	4
3	ヘンゼルとグレーテル	山田実	3
4	さまざまな発電を体験しよう	栗山嘉文	4
5	ライントレーサーを動かしてみよう	飯田民夫	4
6	地雷探査ロボットを体験しよう	栗山嘉文	7
7	レスキューロボットを体験しよう	臼井敏男	5
8	斬って斬って2進数	田島孝治	3
9	ゲームを作って学ぶ－プロクラム製作委員会-	田島孝治	2
10	パズルであるれるコンピュータの世界－Puzzle De Programing－	田島孝治	2
11	地震防災について考えよう	廣瀬康之	6

総計４６名の参加

（出典　平成23年度のアウトリーチ教育活動報告会資料より）

（分析結果とその根拠理由）

本校教員と技術職員は校費が削減される中、外部資金の獲得や、校内・校外の連携を通して、また、学生との研究活動を通して、積極的に研究活動や教育に関する改善活動および外部連携活動を推進し、教育の質の改善を進めている。これらの成果として、平成23年度の本校の科学研究費補助金採択課題数は２５件で有り、仙台高専に次ぐ、全国２位の採択数であった。この外部資金による教育・研究機器の更新や教員および学生の研究活動やその学会等での発表は、全国または海外との比較を可能とし、教育の質の改善に大きく寄与している。また、平成22年３月に科学技術リテラシー教育推進室長・羽渕仁恵准教授（電気情報工学科）が野依科学奨励賞を受賞、平成23年度の学生による地域課題解決提案事業（ネットワーク大学コンソーシアム岐阜）において，環境都市工学科５年生の永田臨君（都市交通研究室）がグランプリを受賞するなど、多くの成果が得られている。

以上に加えて、平成16年に採択されたe-learningに関する現代ＧＰプログラムや、平成17年に採択されたリテラシー教育に関する現代ＧＰプログラム、社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラ

ムなど、それらの成果となる教育研究活動を、改良を加えつつ現在まで全て継続して実施・拡充していることも、研究活動が教育の質の改善に寄与していることの根拠となる。なぜならばこれらは全て学生の参加により成り立つプログラムで有り、一部他大学や他高専の外部受講者を含めて、単位認定を可能とするプログラムであるため、学生の選択参加が継続される事を前提としているからである。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

資料９－２－①－１に「教育改善活動実施規程」を示した。本規程では，本校におけるＦＤ活動として，授業参観，学生による授業評価，及び研修会等の実施及び派遣の３項目が規定されており，また，この推進組織も規定されている。すなわち，ＦＤ活動推進会議は，　教務会議の下に設置し，教務主事，教務主事補佐及び教務主事が指名する教員３名で構成することとされている。資料９－２－①－２は教務会議における役割分担を示したものであり，ＦＤ活動推進会議のメンバー割り当てられている。実際の活動は，教務会議の中で一体運営されており，この件は，教務会議の議事録にも明記されている。（資料９－２－①－３）

資料９－２－①－４は，教務会議内のＦＤ活動推進会議から，スパイラルアップ会議に報告された活動内容の一例（抜粋）である。また，学外における研修会等への参加状況を資料９－２－①－５に示す。

資料９－２－①－１

岐阜工業高等専門学校における教育改善活動実施規程

制定　平成 17 年 10 月 5 日
学校規則第 34 号

（趣旨）
第１条 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（教育内容及び教育方法を改善し，向上させるための組織的かつ継続的な取組。（以下「ＦＤ」という。））の推進に関する事項については，この規程の定めるところによる。
（ＦＤ活動）
第２条 本校におけるＦＤ活動は，次のとおりとする。
一 授業参観（全学的に計画し，年１回以上実施）
二 学生による授業評価（前期末及び後期末に実施）
三 教職員の資質向上のための研修会等の実施及び派遣
四 その他のＦＤ活動
（ＦＤ推進組織）
第３条 本校におけるＦＤを推進する組織は，次のとおりとする。
一 学習評価フォローアップワーキンググループ
二 ＦＤ活動推進会議
２ 学習評価フォローアップワーキンググループは，点検評価フォローアップ委員会の下に設置し，同委員会委員長及び委員長が指名する委員９名で構成する。
３ ＦＤ活動推進会議は，　教務会議の下に設置し，教務主事，教務主事補佐及び教務主事が指名する教員３名で構成する。
（ＦＤ活動の点検，評価及び改善）
第４条 学習評価フォローアップワーキンググループは，学生による授業アンケートを実施し，それに基づく授業の評価及び改善を行う。
２ ＦＤ活動推進会議は，保護者及び教職員等による授業評価として，授業参観等の企画及び実施を行い，授業の改善を推進する。
３ 前２項に規定するＦＤ活動の具体的な活動内容及び点検・評価の方法は，年度ごとに定める実施要項によるものとする。
４ ＦＤ推進組織は，第１項及び第２項に規定する点検，評価又は改善の実施状況について，スパイラルアップ会議へ報告しなければならない。

（その他）
第５条 この規程に定めるもののほか，ＦＤ活動に関する必要な事項は，別に定める。
附 則
この規程は，平成 17 年 10 月 5 日から施行し，平成 16 年 4 月 1 日から適用する。
附 則（平成 22 年学校規則第 11 号）
この規則は，平成 22 年 5 月 24 日から施行し，平成 22 年 4 月 1 日から適用する。
附 則（平成 23 年学校規則第 19 号）
この規則は，平成 23 年 5 月 23 日から施行し，平成 22 年 4 月 1 日から適用する。
（出典　岐阜工業高等専門学校規則集）

資料９－２－①－２

平成24年度　教務会議委員業務分担表　10月10日修正

教務会議委員の分担項目	委員構成・仕事内容・日程等	H24委員	事務担当者
点検評価・フォローアップ委員会（1名）	教務･専攻科・学生･寮務から各1名	山田実	-
教務事務電算処理検討委員会(委員)	電算処理システムの完成	福永	西田・佐藤
◆学校広報活動部門			
ホームページ部門委員(1名)	教務･専攻科・学生･寮務から各1名	山田博文	西田
広報誌部門委員（1名）	教務･専攻科・学生･寮務から各1名	山田博文	渡邊
広報総括	年度始めの計画と年度末の総括	山田実・廣瀬	國枝
中学校訪問立案・出前授業立案・塾訪問立案	中学訪問6月中旬～11月中旬，出前授業を予計画	廣瀬・山田実	國枝
学校説明会	学校説明会（本校主催10回），中学校からの要請（中期目標５校以上）	山田実・廣瀬・福永	國枝
中学校からの来訪対応	主にＰＴＡさんの見学ツアー	上原・廣瀬	國枝
岐阜高専オープンキャンパス（旧見学会）	9月1日実施	山田実・廣瀬	國枝
岐阜高専一日入学	10月30・31　11月1日	清水（隆）	國枝
地区保護者懇談会への教務委員対応者（主事の代理）	11月中に７会場で実施予定	上原	-
◆定常的な仕事			
時間割の作成・授業変更・補講計画など	前期時間割，前期中間試験，前期期末試験，前期補講，後期時間割，後期中間試験，後期期末試験，後期補講など，	上原	前原
シラバス関係の維持・管理	12月～2月改変，3月CD化又はHP上に公開・印刷	山田博文・上原	前原
教務重要事項の学内周知（教務掲示板の更新・維持・管理）	毎日，定常活動	山田博文・上原	西田・佐藤
6号館の利用促進・管理・機種更新計画・教育コンテンツ	年2～3回会議	山田博文・上原	渡邊
次年度の学生募集要項	12月～2月頃までに原案完成，印刷3月	福永	國枝
次年度の編入学生募集要項	12月～2月頃までに原案完成，印刷3月	福永	國枝
次年度の年間行事予定計画	後期から立案，２月末校了	福永	渡邊
次年度の新入生の手引き（一般科が妥当）	2月校了予定	上原	渡邊
次年度の特別活動計画　（一般科が妥当）	2月校了予定（ホームページ上に公開）	上原	渡邊
次年度学級担任の手引き	2月校了予定，3月初旬に印刷，オリエンテーションに間に合わせる	加藤	渡邊
次年度の学生便覧・教員手帳	規則改正を含み12月～2月校了，3月印刷予定	上原・清水（隆）	渡邊
次年度の学校案内	3月上旬校了予定	清水（隆）・中島	國枝
次年度の中学生向けパンフレット・ポスター	3月上旬校了予定	清水（隆）・中島	國枝
新入生研修（参加）・校内研修立案	2月立案。４月実施	上原	渡邊
入学者の追跡調査の入力作業	10月末データ打込。11月末までに分析	中島	-
◆上記以外または緊急事項			
JABEE関係および中期計画，認証評価関係1名	随時，主事指名	上原	-
教員・教科間ネットワーク担当	（英語，数学，物理，留学生問題），4名程度	上原	西田・佐藤
FD活動推進会議	主事，教務委員3名	主事・上原・中島・清水	今西
授業参観の立案	FD推進会議委員が兼務	主事・上原・中島	今西
カリキュラム検討WG	教務会議委員2名	上原・廣瀬	渡邊
学生支援委員会(学生主事主管)	学生支援委員会へ教務委員1名	上原	-
進学指導部門委員会（教務主事主管）	進学指導部門へ教務主事補佐1名	上原	-
その他・緊急事項	随時	主事指名	-
教務掲示板の維持管理（アップロード等）	随時	主事	
議事録	年間の教務会議　36回程度	主事	-

（出典　教務会議資料）

資料９－２－①－３

平 24 年度　第 14 回　教務会議議事録

日時：平成 24 年 8 月 24 日（金）15：05-15：55	開催場所：教務主事室

出席者：加藤，宮口，上原，石丸[代]，山田博文，福永，廣瀬，清水，和田学生課長，渡邊教務係長，國枝入試係長
欠席者：　山田実

（審議事項）

①　オープンキャンパス 2012　最終確認
ロボ研によるロボコンのデモ参加：主顧問の北川先生から校長名の依頼書がないと受けられないとの要望を頂いたが，実施要項とオープンキャンパスのチラシを提示しご理解頂いた．平成 25 年度についてはチラシ作成段階で参加の可否を確認する．
業務分担及び受付業務　資料に基づき國枝入試係長から説明があった．教務委員は受付業務．
専門学科の昼食券・腕章・アンケート回収箱が配布された．

②　平成 24 年度前期期末試験運用方針の確認
非常勤講師については，7/19 に資料配布済．後期の非常勤講師には学期当初の配布資料で，注意喚起．

③　一日入学計画
清水委員から資料に基づき，説明され原案が了解された．
各学科で実施要項の●印の担当者を決めて，清水委員に連絡．清水委員から別途，メール配信される．締切 9/7

（報告事項）

①　第 13 回議事録を掲示板にアップ済

②　機構本部の幹事監査の資料集協力をお願い致します．
「中長期目標における独創的なカリキュラムの有無」のエビデンスを求められているので，8/31 までに各専門学科の情報（資料）を加藤宛にお送りください．関連の授業科目のシラバスや高専教育等への投稿論文の抜き刷り等を頂けるとありがたいです．抜き刷りの場合は現物でけっこうです．ちなみに，前回の平成 20 年度では
M科：創生工学実習，Ｅ科：コース制のカリキュラム，Ｄ科：４年生の総合実験システム，
Ｃ科：シビルエンジニアリング入門
教務主事から資料に基づき依頼がなされた．別途，メールにて案内が出される予定．

③　学生の異動
[redacted]　退学：平成 24 年 9 月 30 日 付　進路変更のため

④　平成 24 年度の学習到達度試験　数学及び物理の学習領域を教科目担当教員で検討．平成 23 年度と同じとして機構本部に回答

⑤　教員授業持時間一覧表　締切 8/31（金）7/26 前原さん配信

⑥　４年の研修旅行の旅程を教務掲示板項目 206 にアップロード　8/24

⑦　モデルコアカリキュラム（試案）の検討項目について
各専門学科の教育課程とモデルコアカリキュラムに提示されている学習内容とを比較し，不足している内容を抽出．教務掲示板項目 119 に掲載

⑧　後期授業時間割作成（上原）

⑨　前期期末試験時間割・フォローアップ等時間割作成（上原）8/1 付メール配信　（専攻科分はファイル上で作成）

⑩　中学校訪問　報告書　教務掲示板の項目 401 に掲載　8/2 付

⑪　広報活動スケジュール総括
一日入学の項目も増やされる予定（オープンキャンパスと同様の表現を予定）
中学校主催進路説明会担当者　9/27 上石津：上原補佐　10/17 不破中：廣瀬委員　10/19 山田中：清水委員

（ＦＤ活動推進会議　報告）メンバー　上原補佐，宮口委員，清水委員

①　8 月 30 日（木）　ＦＤ講演会を開催予定．講師は天野先生
当日の会議構成（検討中）　13 時　ＦＤ講演会　14：30 教員会議　→　学級担任会議

（全国教務主事会議が 8/30 に実施されるため廣瀬委員に代理出席を依頼済）

②　空先生　8/2-8/5　平成 24 年度就職・キャリア支援研修会「基礎コース」（(独)日本学生支援機構主催）

（学科への報告事項・依頼事項）

①　【9 月末締切】「学位取得候補教員の業務負荷配分の取扱い」の案内　8/24 配信

教務会議予定　第 15 回　8 月 31 日（金）　15 時

（出典　平24年度第14回教務会議議事録）

資料９－２－①－４
平成 23 年 5 月

スパイラルアップ会議資料

平成 22 年度の活動報告

ＦＤ活動推進会議

平成 22 年度ＦＤ活動一覧

番号	実施項目	概要	資料
1	新任教員研修（校内）	4 月 1 日（木）　教務主事室	2 頁
	鈴木基伸先生（交流），菱川洋介先生，本塚智先生，水野剛規先生の４名の新任教員が参加した．		
2	授業参観週間（教職員）	5 月 17 日（月）～5 月 21 日（金）　本校教職員	8 頁
	延べ 94 件の個別の報告があり，H22 年度教務掲示板にて学内公開された． 機械工学科会議では講義方法についての相互のアドバイスがなされた．		
3	新任教員研修（派遣）	8 月 23 日（月）～25 日（水）国立オリンピック記念青少年総合センター	11 頁
	一般科（自然）菱川洋介先生，M科 本塚智先生，Ｃ科 水野剛規先生，Ａ科 犬飼利嗣先生の４名が参加した．吉村学生主事が助言者として参加．		
4	管理職研修（派遣）	9 月 30（水）～10 月 1 日（金）機構本部主催　研究主事　臼井敏男先生	18 頁
	リスクマネジメント，学校経営，青年心理，スクールコンプライアンス等の講演があり，参加の臼井先生から詳細な報告がなされた．		
5	ＦＤ講演会	10 月 13 日（水）多目的ホール	23 頁
	英語：鈴木先生『教員交流制度の意義と将来展望』 人事交流で豊田高専から岐阜高専に来られている鈴木先生に講演を頂いた．多方面から岐阜高専と豊田高専の差異についての比較検討結果を示され，岐阜高専の教育システムを俯瞰的に見直す機会となった．		
6	授業参観日（保護者）	10 月 21 日（木）～10 月 22 日（金）本校	24 頁
	学外者の参加は３名と少なかった．教職員参加 28 名，保護者参加 84 名で合計 112 名であった． アンケートの回答は 84 件であり，平成 22 年度教務掲示板にて学内公開された． 事後，10 月期の授業参観のあり方がＦＤ活動推進会議（教務会議）で検討され，平成 23 年度からは 5 月に集約すること等が確認された．		
7	発達障がい FD 講演会	1 月 19 日（水）多目的ホール　**（学生相談室主催）**	28 頁
	『発達障害的な傾向のある学生の理解と対応』外部の臨床心理士天野先生を講師として招き，発達障害学生の指導についての講演を頂いた		

（出典　平成23年度スパイラルアップ会議資料）

資料９－２－①－５

（社）日本工学教育協会での研修一覧

平成20年度	会の名称	平成20年度 第3回ワークショップ「エンジニアリング・デザインの指導法」
	日　程	平成21年3月14日（土）
	参加者	稲葉 成基（電気情報工学科）
	開催場所	工学院大学
	会の名称	平成20年度 第9回ワークショップ「コミュニケーションスキルの指導法」
	日　程	平成21年2月14日（土）
	参加者	所 哲郎（電気情報工学科）
	開催場所	日本大学
	会の名称	平成20年度 第9回ワークショップ「技術者倫理」
	日　程	平成21年2月21日（土）
	参加者	所 哲郎（電気情報工学科）
	開催場所	日本大学
平成21年度	会の名称	平成21年度 第4回ワークショップ「エンジニアリング・デザインの指導法」
	日　程	平成22年3月6日（土）
	参加者	山田 功（電気情報工学科）
	開催場所	工学院大学
	会の名称	平成21年度 第10回ワークショップ「コミュニケーションスキルの指導法」
	日　程	平成22年2月13日（土）
	参加者	柴田 良一（建築学科）
	開催場所	東京工業大学
	会の名称	平成21年度 第10回ワークショップ「技術者倫理」
	日　程	平成22年2月26日（土）
	参加者	空 健太（一般科目人文）
	開催場所	金沢工業大学 東京虎ノ門キャンパス
平成22年度	会の名称	平成22年度 第11回ワークショップ「技術者倫理」
	日　程	平成23年2月26日（土）
	参加者	熊崎 裕教（電気情報工学科）
	開催場所	芝浦工業大学

（出典　総務課資料）

資料９－２－①－６には「平成24年度授業参観実施要項」を示した。また，資料９－２－①－７は保護者や外部からの参加者のアンケート結果をまとめたものの最初の部分のみを抜粋したものである。また，資料９－２－①－８は教員による授業参観の件数，及び報告書の提出件数を取りまとめたものである。さらに，資料９－２－①－９は，各学科による事後の関連の意見交換の議事録一例であり，電気情報工学科の例である。

また，学生による授業評価（授業アンケート）の項目別クラス平均値の年度別推移から，授業の満足度や達成度において改善された例を資料９－２－①－10に示す。

資料９－２－①－６

平成 24 年 4 月 19 日

平成 24 年度　授業参観実施要項

１．主旨

本校の FD 活動として，教員相互の授業参観を含め，本校関係者から一般の教育関係者まで広く授業を公開し，これに伴う授業評価を通して，本校教員の授業運営能力及び教授能力の向上を図る。

２．参観者

本校教職員（非常勤を含む）及び保護者，中学生及びその保護者，中学校の先生及び教育関係者

３．実施期間

平成 24 年 5 月 14 日（月）～ 18 日（金）

４．参観対象授業

本科及び専攻科の実験実習を含む全授業（ただし，卒業研究，特別研究を除く）

５．周知方法
① 学内者：教員は教務主事より，事務職員・非常勤講師は教務係長より
② 保護者：保護者宛ての案内文書を送付（案内文書と授業時間割）
③ その他学外者：ホームページ（山田博文委員担当）

６．授業評価の方法
① 学内者は，別紙１の報告書を電子ファイルで，教員は教務委員，事務職員は教務係長へ提出する（5 月 25 日（金）締切）。
② 保護者及び学外者には，別紙２のアンケート用紙を受付で配布し，教務係で回収する。
③ 教務主事は，提出されたすべての報告書等を PDF 化して，学内ホームページに公開する。
④ 各学科長は，参観対象となった所属学科教員に関する報告書等を閲覧し，改善すべき事項について，最良の改善策を見出すために学科会議等で意見交換を行い，その経緯を議事録として記録に残し，保管する。
⑤ 教務主事は，必要に応じて各学科長にその議事録の提出を求め，総括を行う。

７．保護者及び学外者への対応
① 受付：学生課窓口（保護者は名列表に人数を記載，保護者以外は所属と氏名を記載）
② 受付で，リボン，アンケート用紙，授業時間割表，敷地建物案内図，筆記用具を渡す。
③ アンケートの回収：学生課窓口に回収箱を設置

８．その他
① 各学科でこの期間に工場見学等の学外授業を計画しないようにする。高専バスの利用は許可しない方針。
② FD 活動推進会議委員はフォローアップ委員会で『満足度』や『達成度の自己評価』について懸念の指摘のあったクラス（①5D②4E③4C の３クラスを）を重点的に参観.

（出典　教務会議資料）

資料９－２－①－７

平成24年度　授業参観アンケート集計一覧

参観月日	回答者	クラス	学年	授業科目	学生の様子		教員の教え方と教室の雰囲気について			自由記述欄
					全体的に、授業に意欲的・積極的に取り組んでいた	全体的に、授業内容を理解しているようだった	話し方、説明の仕方は、わかりやすいものだった	板書・プロジェクターなどによる資料提示が適切だった	教室は、清掃・整頓等、学習しやすい環境になっていた	
5月14日	保護者	M	2	化学B	4	4	4	4	3	ノートをしっかりとっていた。 前に出て答えている姿がよかった。
5月14日	保護者	E	2	倫理	3	4	4	4	3	先生がていねいに説明していた。
5月14日	保護者	A	2	数学ＡⅠ	4	4	4	4	3	机上になにもない子がいた。
5月14日	保護者	M	2	化学B	4	4	4	4	4	
5月14日	保護者	E	2	倫理	3	4	4	4	4	
5月14日	保護者	A	2	数学ＡⅠ	3	4	4	4	4	
5月14日	保護者	M	2	化学B	4	4	4	4	3	
5月14日	保護者	E	2	倫理	4	4	4	4	3	
5月14日	保護者	A	2	数学ＡⅠ	4	4	4	4	3	
5月14日	保護者	M	2	化学B	4	4	4	4	4	
5月14日	保護者	E	2	倫理	4	4	4	4	4	
5月14日	保護者	A	2	数学ＡⅠ	4	4	4	4	4	
5月14日	保護者	M	1	保健	5	5	5	5	5	教室のゴミ箱が仕分けされていて驚きました。 午後の眠い時間帯の保健の授業、みんな頑張って聞いていました。
5月14日	保護者	A	1	特活	3	3	3	3	3	
5月14日	祖母	A	1	建築製図Ⅰ	4	3	3	3	4	
5月14日	祖母	A	1	特活	4	4	4	4	4	
5月14日	保護者	A	1	建築製図Ⅰ	4	3	4	3	4	
5月14日	保護者	A	1	特活	4	4	4	4	4	
5月14日	保護者	D	1	英語A	4	4	5	4	3	先生の発音が良く、説明を聞き取りやすく良かったです。 但し、生徒の中には集中できず、他事をしている子もいたので、もう少しがんばってほしい（1年生ならこんなもんかなあ？）
5月14日	保護者	E	2	英語C	3	4	3	3	3	
5月14日	保護者	M	3		4	3	4	3	3	
5月14日	保護者	D	3	英語A	2	2	2	3	2	
5月14日	保護者	D	1	数学ＡⅠ	4	4	4	4	4	静かで（ムダロがなく）真剣に授業に取り組んでいる様子でした。クラスの雰囲気が見たかったので、少しだけ参観させていただきました。
5月14日	保護者	C	1	数学ＡⅠ	3	3	4		3	女子のマスク
5月14日	保護者	C	1	数学ＡⅠ	4	4	4		3	
5月14日	保護者	A	3							
5月14日	中学3年保護者	A	1	国語B	4				5	学校の地図がよく分からない。C科やD科、4号館、5号館、呼び名と表示が違う気がする。
5月14日	中学3年保護者	E	1	英語A	4				3	
5月14日	中学3年保護者	D	1	数学ＡⅠ	4			5	4	
5月14日	中学3年保護者	A	1	国語B	3	3	4	3	3	校内地図が解りづらく、移動教室先へ行く事ができなかった。
5月14日	中学3年保護者	D	1	数学ＡⅠ	4	4	4	3	3	
5月14日	中学3年保護者	E	1	英語A	4	4	4	3	3	
5月15日	保護者	D	1	物理A	3	3	0	0	3	少しザワザワしているのが気になりました。 まじめにとりくんでいる子もいましたが…。

（出典　教務会議資料）

資料９－２－①－８

平成２４年度　授業参観参加　教員による報告書件数とりまとめ

所属		報告書提出件数	授業参観件数（含　報告書提出分）
校長			
1	北田敏廣	0	4
一般科目（人文）			
1	清水晃	2	2
2	高原清志	2	2
3	亀山太一	0	0
4	宮口典之	2	3
5	山本浩樹	0	0
6	久保田圭司	2	3
7	中島泰貴	1	2
8	種村俊介	2	2
9	野々村咲子	2	2
10	空健太	2	5
小計		15	21
一般科目（自然）			
1	久世早苗	2	7
2	岡田章三	0	0
3	上原敏之	2	2
4	山本浩貴	1	10
5	坂部和義	1	1
6	中島泉	1	12
7	麻草淳	1	1
8	岡崎貴宣	2	10
9	北川真也	2	6
10	菱川洋介	1	1
小計		13	50
機械工学科			
1	片峯英次	2	2
2	加藤浩三	12	44
3	小栗久和	2	2
4	石丸和博	2	2
5	山村基久	2	2
6	山田実	2	2
7	山本高久	2	2
8	中谷淳	1	1
9	河野託也	0	0
10	稲葉金正	2	2
11	本塚智	2	2
小計		29	61
電気情報工学科			
1	安田真	1	1
2	稲葉成基	2	2
3	山田功	3	3
4	所哲郎	3	6
5	熊崎裕教	2	2
6	出口利憲	1	1
7	冨田睦雄	3	3
8	山田博文	2	2
9	宮田勲	1	1
10	飯田民夫	2	2
11	田島孝治	2	2
12	白木英二	2	15
小計		24	40
電子制御工学科			
1	藤田一彦	4	4
2	臼井敏男	2	3
3	長南功男	0	0
4	森口博文	1	1
5	北川秀夫	2	2
6	福永哲也	4	4
7	遠藤登	2	2
8	森貴彦	1	1
9	小林義光	1	1
10	北川輝彦	1	1
11	栗山嘉文	1	1
小計		19	20
環境都市工学科			
1	鈴木正人	3	3
2	鈴木孝男	2	2
3	岩瀬裕之	2	2
4	和田清	3	3
5	吉村優治	2	2
6	廣瀬康之	2	2
7	水野和憲	3	3
8	角野晴彦	2	2
9	東海林孝幸	2	2
10	坂本淳	2	2
11	水野剛規	2	2
12	渡邉尚彦	4	4
小計		29	29
建築学科			
1	下村波基	1	1
2	犬飼利嗣	2	2
3	鶴田佳子	3	5
4	小川信之	0	0
5	柴田良一	1	1
6	今田太一郎	1	1
7	青木哲	1	2
8	藤田大輔	0	0
9	清水隆宏	2	4
10	中谷岳史	2	2
11	田中正史	2	2
小計		15	20
事務部		8	14
非常勤講師		2	0
合計		154	259

（出典　教務会議資料）

資料９－２－①－９
平成 24 年 6 月 18 日

授業参観に関わる学科における検討（電気情報工学科）

各授業参観報告書をもとに参観者・授業担当者がコメントし、その後自由に発言する形式で検討会を実施した。検討会にて話し合われた内容は、以下のとおりである。

1. 授業の準備について
- 板書の内容について検討し、改良を重ねることにより、わかりやすい（ノートが取りやすい）板書となっている。

2. スライドを用いた授業について
- スライドを用いて話すだけだと学生は聞くだけになるので、そうならないよう工夫が必要である。
  - ➢ 配布資料の重要箇所を抜いておく（ただし、配布資料の重要箇所を抜いておいても、スライドが変わると書き写し、それ以外は授業を聞いていない学生もいる）。
  - ➢ 学生に質問する。

3. 黒板・ホワイトボードの使い方について
- 3ECR の黒板の下のほうは、後方の席からは見えにくいので、書かないようにするなど配慮が必要である。
- 4ECR において板書で授業する場合、今年度の 4E は人数が少ないので、普通に書いても後方の席でも案外文字が読める。教員によっては、一つの数式を横方向に複数枚のホワイトボードに渡って大きな文字で書いているなど工夫している。

4. 実験について
- 説明書を見ればある程度分かるように工夫して作成している。
- 安全のため、服装（特に靴）については常に指導している。参観者から指摘があった、女子学生の髪については、束ねるように指導した。

5. 各クラスについて
- 3E は質問しても反応がない。
- 4E は点検評価・フォローアップによる追跡調査対象のクラスであるが、4 年になり授業態度等から判断するとよくなっていると思われる。
- 5E(E)については、一部の学生が私語をすると止まらない。板書をすれば学生が私語をしないので、ある教員はたくさん板書することで私語をさせないようにしている。

（出典　教務会議資料）

資料９－２－①－10

授業アンケート結果に関する平成２２年度からの追跡事項

１）満足度に関する平成 22 年度からの懸案事項について

①3.4 以下のクラスについて年度別に推移を分析した結果、
平成 19 年度→20 年度→21 年度→22 年度　以下同じ
２Ｅは 3.5→3.6→4→3.4 と推移しており、今年度の２Ｅの結果を注視したいとしていた。
今年度の結果は 3.6 であり、改善されていると判断する。
３Ａは 3.6→3.5→3.6→3.3 と推移しており、今年度の３Ａの結果を注視したいとしていた。
今年度の結果は 3.6 であり、改善されていると判断する。
②3.4 以下のクラスについて学年進行とともに推移を分析した結果、
２Ｅは 3.5→3.4 と推移しており、今年度の３Ｅの結果を注視したいとしていた。
今年度の結果は 3.4 であり、低落傾向に歯止めがかかったと判断する。
３Ａは 3.7→3.4→3.3 と減少で推移しており、４Ａでの改善が望ましい。今年度の４Ａの結果を注視したいとしていた。
今年度の結果は 3.4 であり、低落傾向を持ちなおしたと判断する。

２）達成度の自己評価に関する平成 22 年度からの懸案事項（審議事項）

①年度別に推移を分析した結果、
３Ａは 3.6→3.5→3.4→3.3 と推移しており、今年度の３Ａの結果が懸念される。今年度の３Ａの結果を注視したいとしていた。
今年度の結果は 3.5 であり、低落傾向は解消されたと判断する。
②学年進行とともに推移を分析した結果、特に、単調な減少傾向を認めないとしていた。

上記の２件の審議事項の結果については、教員会議及びスパイラルアップ会議にて報告する。
（出典　平成２３年度点検評価フォローアップ委員会会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校ではファカルティ・ディベロップメントの推進により「教育改善活動実施規程」が規定されている。特に本規程ではＦＤ活動として，授業参観，学生による授業評価，及び研修会等の実施及び派遣の３項目が規定されている。また，この推進組織としてＦＤ活動推進会議が定められており，教務主事，教務主事補佐及び教務主事が指名する教員３名で構成することとされている。また，実施報告は，教務会議内のＦＤ活動推進会議から，スパイラルアップ会議に報告されている。

授業参観は，計画的に実施され，各教員の参観報告書が提出され，これに基づき各学科の意見交換もなされる。本校では，総じてファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，資料９－２－①－９より教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると言える。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

本校の主たる教育支援者である技術室職員に対しては、東海北陸の技術職員研修、地域技術開発・教育センター機器の安全講習会、情報処理センター技術職員のセキュリティ研修等に参加する機会を毎年与えている。また、企画室職員を含めて認証評価や科学研究費補助金等の講習会・研修会に参加している。また、教職員を対象にした、熱中症に対する安全講習会や、カウンセリングや学生に対する講習会等、その資質の向上を図るための取り組みが行われている。資料９－２－②－１に技術室職員が参加した研修等の一覧を示す。また、資料９－２－②－２に地域技術開発・教育センター付けの技術室職員が参加した研修名等の一覧を示す。なお、外部資金獲得講習会はじめ、いくつかの取り組みや講習会は教職員、場合によっては学生を含めて受講対象として開催している。

平成１９－２３年度技術職員研修・講習会参加一覧を資料９－２－②－１に示す。

資料９－２－②－１

	研修・講習名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
1	東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修	2	2	2	2	2
2	西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修		2			
3	東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修			2		1
4	豊橋技術科学大学　技術公開講座「技術者養成研修」				1	
5	オムロン　高専基礎コース（PLC 基礎編）研修					1
6	オムロン　高専セミナ応用コース（サーボ編）研修					1
7	ファナック　R-J3 保守コース研修		1			
8	ヤマザキマザック　プログラムトレーニングマシニングコース研修			5		
9	ヤマザキマザック　プログラムトレーニング旋盤コース研修			3	1	
10	ヤマザキマザック　トレーニングスクール EIA/ISO マシニングセンタ				4	
11	ヤマザキマザック　トレーニングスクール EIA/ISO 旋盤				1	1

12	三菱電機　型彫放電加工機標準操作コース研修			5		
13	三菱電機　ワイヤ放電加工機標準操作コース研修			4		1
14	ミツトヨ　形状偏差の測定技術					1
15	産業用ロボットの教示等の業務に係る特別教育				1	
16	アーク溶接特別教育		2			
17	ガス溶接技能講習				1	
18	玉掛け技能講習	1			1	
19	クレーン特別教育				1	
20	ネットワークのトラブルシューティング・実践トレーニング（Cisco 編）		1			
21	情報システム統一研修（第３回情報セキュリティⅢ）			1		
22	Windows2008 サーバ構築・管理講座				1	

（出典　技術職員会議資料取りまとめ）

平成１９－２３年度地域技術開発・教育センター技術職員研修・講習会参加テーマ一覧を資料９－２－②－２に示す。

資料９－２－②－２

氏名	年度	研修名
佐藤昌彦	H20年度	ファナック　R-J3 保守コース研修
佐藤昌彦	H21年度	ヤマザキマザック　プログラムトレーニングマシニングコース研修
佐藤昌彦	H21年度	ヤマザキマザック　プログラムトレーニング旋盤コース研修
佐藤昌彦	H21年度	三菱電機　型彫放電加工機標準操作コース研修
佐藤昌彦	H21年度	三菱電機　ワイヤ放電加工機標準操作コース研修
佐藤昌彦	H22年度	ヤマザキマザック　プログラムトレーニングEIA／ISOコース研修
佐藤昌彦	H23年度	オムロン　高専基礎コース（PLC 基礎編）研修
佐藤昌彦	H23年度	オムロン　高専セミナ応用コース（サーボ編）研修
奥田浩幸	H20年度	溶接研修
奥田浩幸	H21年度	マザックマシニングセンター研修
奥田浩幸	H21年度	三菱放電加工研修
奥田浩幸	H22年度	マザック NC 旋盤研修
奥田浩幸	H23年度	三菱ワイヤー放電加工機研修
奥田浩幸	H23年度	マザック EIA NC 旋盤研修
洲崎文嘉	H21年度	アーク溶接特別教育
洲崎文嘉	H21年度	ヤマザキマザック　トレーニングスクール　プログラミングコース　マシニングセンタ
洲崎文嘉	H21年度	ヤマザキマザック　トレーニングスクール　プログラミングコース　旋盤
洲崎文嘉	H21年度	三菱電機セミナー　ワイヤ放電加工機　標準操作コース
洲崎文嘉	H21年度	三菱電機セミナー　形彫放電加工機　標準操作コース
洲崎文嘉	H22年度	ガス溶接技能講習
洲崎文嘉	H22年度	玉掛け技能講習
洲崎文嘉	H22年度	クレーン特別教育
洲崎文嘉	H22年度	ヤマザキマザック　トレーニングスクール EIA/ISO 旋盤
洲崎文嘉	H22年度	ヤマザキマザック　トレーニングスクール EIA/ISO マシニングセンタ
洲崎文嘉	H22年度	豊橋技術科学大学　技術公開講座「技術者養成研修」
佐藤健治	H21年度	ヤマザキマザック　プログラムトレーニングマシニングコース研修
佐藤健治	H21年度	ヤマザキマザック　プログラムトレーニング旋盤コース研修
佐藤健治	H21年度	三菱電機　型彫放電加工機標準操作コース研修

佐藤健治	H21年度	三菱電機　ワイヤ放電加工機標準操作コース研修
佐藤健治	H22年度	ヤマザキマザック　プログラムトレーニングEIA／ISOコース研修
奥村政充	H22年度	ヤマザキマザック　プログラムトレーニングEIA／ISOコース研修
奥村政充	H21年度	三菱電機　型彫放電加工機標準操作コース研修
奥村政充	H21年度	三菱電機　ワイヤ放電加工機標準操作コース研修
奥村政充	H21年度	ヤマザキマザック　プログラムトレーニングマシニングコース研修
奥村政充	H20年度	アーク溶接特別教育
奥村政充	H19年度	玉掛け技能講習
奥村政充	H19年度	クレーン特別教育
奥村政充	H22年度	産業用ロボットの教示等の業務に係る特別教育
奥村政充	H23年度	ミツトヨ　形状偏差の測定技術

（出典　技術職員会議資料取りまとめ）

（分析結果とその根拠理由）

教育支援者等のスキル更新や能力改善にかかる研修会、安全にかかる研修会に予算と日程の許す範囲で積極的に参加させている。また、公開講座や出前授業等にも技術室職員等の参加を促している。それらの成果として、本校技術職員が平成23年度は１件、24年度は２件の科学研究費（奨励研究）を獲得している。また、特に問題等も発生しておらず、学生及び教員の技術職員に対する期待は大きく、小水力発電コンテスト等、新しい活動へも積極的な参加が得られている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

「教育改善活動実施規程」により規定されたＦＤ活動の実施とその点検・評価及び改善を行うループが適切に機能している点は優れていると言える。また「学習評価・フォローアップ点検実施要領」を定め，授業に関する改善を年度中に図るなどの徹底した教育改善の実施，教員同士の点検・評価とその後の面談におけるフォローアップ点検システムの構築，教職員及び保護者による授業参観と授業評価などは，他の高専では類をみないものである。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準９の自己評価の概要

教育活動に関する点検・評価及び改善を「教育改善活動実施規程」により規定し，教職員による授業参観とその評価，学生による授業評価，教職員の資質向上のための研修会の実施などのＦＤ活動を，ＦＤ活動推進会議と学習評価フォローアップワーキンググループの２つの組織が中心となって適切に実施している。また，これらの取組みをスパイラルアップ会議にて点検・評価及び改善することで，学校全体として教育の質の向上をはかるループが機能している。